

# 地名研究会報

第 101 号

平成 20 年 8 月 3 日

鹿児島地名研究会

- I. 第 101 回例会 平成 20 年 6 月 1 日 (日) 於西郷南洲顕彰館研修室  
(出会者) 入来院貞子・上野堯史・内山憲一・川野雄一・築地成郎・西育朗・  
浜田良知・脇岡修一郎・平田信芳・二見剛史・米原正晃 (計 11 名)
- II. 大日本地名辞書読会 P. 580~P. 581 種子島 (多祢島)・屋久島  
〔話題となった地名および事項〕 赤尾木湊・能満と野間・八重岳・泊如竹と  
薩南学派・福昌寺と江戸初期の薩摩武士・本町(ホマチ・モマチ)

## 赤尾木湊

平田 赤尾木 (西之表)・赤生原 (櫻島)  
・笠沙町赤生木などは、アコウ=ガジュマル  
=榕樹=赤生木にもとづく植生地名。忠臣蔵  
で知られる播州赤穂はアコウ木の北限だっ  
と考える。種子島氏 (中世~近世の島主) の  
居城は榕城 (別名)。城跡にある小学校の名  
は榕城小学校。それに近い命名が加治木の  
柁城小学校。

## 能満と野間

平田 野間(ノマ)は古代能満郡の遺称。ノマ  
は古代の 3 母音を考えると、ヌマ (沼) と同  
じ発音になり、湿地帯を指す呼び名と考えら  
れる。なお、マは「あたり、ほとり」を意味  
する地名語尾で、県内には船間・中間などの  
地名がそれぞれ数例ある。

## 八重岳 (ハエダケ)

平田 国語辞典では八重(ヤエ)が常識。屋久  
島では多くの峰を総称しているとの解釈だが  
それは疑問。多くの峰を意味するのですの  
であれば、八重桜・八重樺のように「ヤエ」  
と読むべきである。入来院と郡山町との境に  
八重山があり、現在これを「ヤエヤマ」と呼  
ぶが、入来の郷土史家本田親虎氏 (故人) は  
元々は「ハエヤマ」、ハエは鹿児島語では開

墾を意味していた、困ったものだと常々  
云っておられた。

上野 「征西戦記稿」では生山(ハヤマ)  
と書いてある。西南戦争の時、出水から  
紫尾山を越えて宮之城に入り、入来で戦  
って郡山との境の「生山」に登ったのは  
川路利良が率いた別働第 3 旅団です。生  
山の上から鹿児島を眺めた官軍兵士の気  
持は格別だったに違いない。生山ならば  
作物が生えるということで、開墾に結び  
付きますね。

平田 植物・作物が生えるだけでなく  
鹿児島では「歯が生えた」を「歯がおえ  
た」ともいう。モヤシのことをオヤシと  
云い、各地に「オヤシ漬場」と呼ばれる  
場所がある。オヤシから変化したものが  
オヤサレタ (鍛えられた) の表現になる  
と思います。開墾は重労働で、それこそ  
おやされる力仕事になります。

浜田 高さ 1 間、幅 1 間の薪 (タキ) の  
量を「一ハエ」ともいう。学生時代、  
冬休みに帰って来ると親父から「一ハエ  
どま割って行け」と云われていた。

入来院 「ハエンカゼ」という表現も  
ありますね。それが「隼人の風」につな

がるのでは。

平田 南風をハエまたはハエノカゼと呼ぶことから来ている。南風と隼人とは直接結び付かないのだけど、肥薩線を走る特急列車に「隼人の風」と命名して、百年を超える嘉例川駅と横川役を観光資源として、人集めの宣伝をしています。

米原 宮崎県にある九州山地の集落はほとんどが開墾地で「ハエ」と呼んでいる。

浜田 原山(ハヤマ)を鹿児島では「ハイマ」と呼んでいる。江戸時代に開墾した春山(ハヤマ)も「ハイマ」と呼んでいる。重久(シゲヒサ)の春山台地は江戸時代の開墾地です。

平田 春山原(ハヤマハル・ハイマハイ)は江戸時代は放牧場だった。周辺部に馬が出られないようにした堀の跡が残っている。その堀を西南戦争の時、薩軍が塹壕代わりにしたように薩軍兵士の墓が堀の中にある。なお春山原の戦闘以後、薩軍の降伏が相次いでいる。負けた歴史は語りたくないのか、辺見十郎太が勇敢に戦ったということだけを従来強調して来た古戦場でもある。

宮之城町泊野の楠八重や東市来町の平波江などは開墾地名と見てよいが「ハエ」の表現にはいろいろあるようです。「鹿児島方言大辞典」に多くの例が収録されています。参考にして下さい。

#### 泊如竹と薩南学派

平田 屋久島の安房にある泊如竹の墓には訪れようと考えているのですが、まだ果たしていません。薩南学派については高校日本史の教科書に記述されて知られていますが、大学入試によく出るとの理解だけで歴史理解としては物足りなさを感じます。地元としては桂庵玄樹→南浦文之→泊如竹→愛甲喜春を顕

彰すべきです。桂庵玄樹の顕彰碑文と南浦文之の碑文はメモをとっていますが、泊如竹と愛甲喜春のものは未だです。伊敷町仮屋に桂庵玄樹の墓があります。

二見 7月13日に桂庵玄樹没後五百年祭があり、前夜祭もあります。

平田 文之和尚の顕彰碑は大竜小学校と加治木の安国寺にあります。加治木の墓は国指定史蹟になっています。

愛甲喜春の顕彰碑は南林寺由緒墓にあり、墓は志布志大慈寺の近くにあることは知っていますが、まだ見ていません。

米原 愛甲喜春の墓は、大慈寺近くの公園の中にあります。

平田 薩南学派の大事なことは、室町時代の学問の中心地の一つだったと強調することです。京都五山と鎌倉五山の他に3番目の学問の中心地が鹿児島だったと高校生に理解させることです。入試に出るから憶えておけという歴史理解は歴史教育としては失格です。

4人の碑文は漢文もしくは漢文調であり、年月も相当経っているので摩耗の恐れもあり、今のうちにメモして解説を加えておかねばと考えています。当用漢字で教育された人々には苦手の碑文であり解説が必要です。薩南学派4儒僧の碑文は鹿児島県にとって重要な歴史遺産になります。

#### 福昌寺と江戸初期の薩摩武士

平田 島津家の菩提所である福昌寺は薩南学派を育てた臨濟宗とは異なり、曹洞宗の寺だが、戦国時代末期には多くの学僧が全国から集まって来ていた。そんな話を福昌寺跡にある玉龍中学の生徒に

語り聞かせている。桂庵玄樹は長門国(山口県)の人だが、福昌寺も山口と深い関わりがある。山口の瑠璃光寺は山口の人々が誇る寺院で、その五重塔は国宝に指定されている。瑠璃光寺は元々福昌寺の末寺だった。瑠璃光寺は福昌寺で学んだ弟子が建てた寺だと話すと、玉龍中学の生徒は皆びっくりした顔になる。明治初めの廃仏毀釈で鹿児島県の寺はすべて潰されたが過去の栄光は見直してよい。暇のある学生時代に瑠璃光寺を見て、福昌寺の過去を想像するのもよい歴史理解になると玉龍中学の生徒たちに話した。

話は飛躍するが16世紀末の薩摩の武士たちは、豊臣秀吉の島津征討・文禄慶長の役・関ヶ原の戦いで苦戦し、武勇に秀でた武士たちが多かった。しかも彼らは若い頃に朱子学を初めとする学問でも鍛えられ、文字通り文武両道に秀でていた。徳川家康はそれが羨ましくて、三河武士：旗本の手本にしたいと考え徳川の家臣にと懇望したが、二君に見えずと断られている。せめて参観交替で江戸に来た時は徳川の家来たちに武士の教養のあり方を示して欲しいと頼んでいる。文章・書・和歌・詩作を初めとする教養の他に武芸も達者な薩摩武士が多かったことに徳川家康が憧れたと思う。こんなことも薩南学派が後世に残した影響とみてよい。幕末には剽悍な薩摩武士が相場になったが。

#### 薩摩藩の借金五百万両

平田 大河ドラマ「篤姫」が注目を浴びているけど、篤姫嫁入りの前提として調所広郷の財政改革で薩摩藩の赤字が黒字になっていたことに想いを致すべきである。島津斉彬は篤姫の嫁入り支度に10万両使ってもよいと考えていたようだが、実際は1万両を超えた

程度と云われる。具体的な収支は聞いたことはないの、無責任な推定での話になる。それにしても凄い金額だ。南日本新聞の担当者は、1両=10万円で計算している。調所広郷が五百万両の借金を250年賦で処理する方法を考え付くが、1両=10万円と計算した場合、五百万両は5,000億円になる。

上野 5,000億円なんてもんじゃないと思う。島津77万石の米の値段や現在の鹿児島県の年間予算を考慮に入れて推定すると、5兆円と見てもよいのではないか。

平田 天文学的な数字になると感覚的に理解しにくくなるから、低く見ておきましょう。1万両の嫁入り支度は10万円ベースでの計算では、10億円になる。それでも凄い金額だ。

五百万両÷250年賦の償還は世の中が変わってしまったから、大半は未返還のままになってしまった。年2万両の償還と黒砂糖の販売を独占的にさせるとのギブ=アンド=テーク方式だったので、大坂商人が大損をしたわけではない。

奄美の人々は黒糖専売で苦しめられた憾みは忘れないと口にしますが、一方では本土に移住した奄美の人口は多大なもので奄美の人々が鹿児島県本土を支配しつつある。小選挙区制の衆議院議員は1区(鹿児島市)・2区(奄美・南薩)は奄美出身者の指定席みたいになっている。

#### 本町(ホンマチ・モトマチ)

平田 京都の地名を手本としたものがホンマチで、江戸の地名をも真似たのがモトマチと考えられる。

## 信仰地名メモ (1)

### 小鳥神社 (こがらすじんしゃ・こがらすじんじゃ)

(1) 県内	(祭神)	(例祭)
1. 小鳥神社	吹上町小野	10月20日
2. 小鳥神社	桜島町小池 神武天皇	12月3日
3. 小鳥神社	始良町東餅田 木花咲耶姫	6月15日
4. 小鳥神社	加治木町反土 彦火々出見尊	12月15日
5. 小鳥神社	国分市松木 木花咲耶姫	旧11月第2酉日
6. 小鳥神社	垂水市牛根	
7. 小鳥神社	鹿屋市野里 彦火々出見尊	9月23日

### (2) 県外

1. 小鳥神社	福岡市中央区警固町
2. 小鳥神社	福岡県行橋市大谷
3. 小鳥神社	福岡県粕屋郡古賀町筵内
4. 小鳥神社	福岡県宗像郡福間町福間
5. 小鳥神社	山口県防府市華浦
6. 小鳥神社	広島県福山市鞆町鞆
7. 五鳥神社	広島県御調郡向島町向島
8. 木鳥神社	香川県丸亀市本島町泊 (日本武尊伝説を持つ)
9. 小鳥神社	香川県三豊郡詫間町松崎

### (3) 由来

1. 立地から「航海神」と考えられる。

祭神不明のものが多い。

2. 巖島神社の「鳥喰」神事

神鳥 (こうがらす→ごがらす) →五鳥→木鳥・小鳥

神の使である鳥=ごがらす>こがらす

3. 小鳥どん (こがらいどん)

旧国分市の周辺地域に分布する小社や森などの聖地。小鳥がご神体などに止まりコガラス・コガラスと鳴いたことに由来するという。

# 地名研究会報

第 102 号

平成 20 年 10 月 5 日

鹿児島地名研究会

- I. 第 102 回例会 平成 20 年 8 月 3 日 (日) 於西郷南洲顕彰館研修室  
〔出会者〕 青柳俊二・今村誠一・上野堯史・川野雄一・西 郁朗・浜田良知・  
肥後吉郎・脇岡修一郎・平田信芳・古市吉男・山下東洋 (計 11 名)
- II. 大日本地名辞書読会 P. 582~P. 583 口永良部島・硫黄島・鬼界島  
〔話題となった地名および事項〕 尾之間・信有郷・謨賢郷・口永良部島・銭屋五兵衛・  
硫黄島・戦艦大和の沈没海域・徳林神社・柱松・勘合符貿易・  
重野安繹・水路志・南方沿革史論・道州制・陰暦と日蝕・小島神社

## 尾之間 (おのあいだ)

平田 屋久島を訪れた時、尾之間の近くにあるシドッチの碑を見に行く暇がありませんでした。意味は「岡の間」だと思います。

## 信有郷

平田 信濃は本来、科野 (科の木が生えている野)。京都に山科の地名もあり、信有：シノウと読めば科生 (シウ) と直に解釈出来る

## 謨賢郷

平田 屋久島は北と南に郷が分かれています。北では永田が古くは栄えていたとみられます。謨賢のよみ・比定は難しく、不明のままにしておきます。

## 口永良部島 (くちえらぶじま)

平田 入口の永良部と沖の永良部、島津藩が分けた呼び名と考えられます。永良部の意味は不明。言い伝えがないかと考え、口永良部島と沖永良部島を訪れましたが、手掛かりは得られませんでした。なお硫黄島の南端に長く突き出た永良部崎という岬があります。

口永良部港のある本村から峠道を越えると 20 分で北の海岸に出ます。その沖に硫黄島・黒島が並んで見え、はるか彼方に開聞岳が小さく見えます。デジカメでだいたい写真を撮っ

たのですが、操作を間違えて撮ったものがすべて消えました (笑い)。また撮りに行かなくちゃと思っていますが、なかなか再度訪れる暇がありません。私が行った時、赤ん坊が数日前に生まれたから、島の総人口が 149 人になったと喜んでいました。(編集時後記：昭和 20 年代には 2,400 人いたとのこと)。口永良部島の新岳は活火山です。硫黄島・謨訪之瀬島と共に櫻島に呼応して、しょっちゅう噴煙をあげています。口永良部島はいろいろな火山地形を楽しみながら観察出来る処です。

古市 口永良部島に加賀の銭屋五兵衛が活躍した所などがあって地名に残っていると聞きました。イギリスが岡とか通詞が岡とかがあるとのことで役場や郵便局や古老の方たちに電話で聞いたのですが、知らないとのことでした。口永良部がテーマとのことで参加しました。

平田 民宿で郷土史に詳しい方の名を聞いて訪ねたら大阪に行っているとのことで行き違いになりました。帰りの船に乗ろうとした時、降りて来た老人がいたので尋ねたらその人でした。

密貿易が行われていて、イギリス人の建物

(洋館)があった、と。港で降りるとすぐ左手の所です。密貿易のことが幕府の隠密にばれて、そのうち手入れがあるとのことで、洋館は一日で取り壊して退去した、と。退去したイギリス人はトカラ：中之島の沖で遭難したので詳しいことは判らない。ただ洋館に働きに行っていた小間使いのおばさんがいた。そういう言い伝えが残っている、と。

古市 イギリス浦と通詞の岡は？

平田 小字は「イギス」。イギスの浜で、イギリス浜ではない。先程述べた硫黄島と黒島が見える眺めのよい海岸です。この北の浜でなくて、南の港のそばに家を建てて住んでいた、と。これは数人から聞きました。

#### 銭屋五兵衛

平田 口永良部島には上屋久町役場の職員：駐在員が一人いて、いろんな資料のコピーを貰って来ました。原口泉教授が学生を10人ばかり引き連れて銭屋五兵衛の密貿易を調べに来られた。女子学生の一人がその時のレポートを書いており、そのコピーも貰って来ました。銭屋五兵衛が口永良部島で密貿易に関わったとの確証はないとのレポートでした。

銭屋五兵衛が来ていたのであれば浜崎太平次がからんで取引をしたとのことが出て来るのでしょうが、どちらもデータ不足です。

上野 銭屋五兵衛は、加賀藩？

平田 金沢・前田藩。北前船とどこかで浜崎太平次がつながったのではと想像するのだけど、銭屋五兵衛は保守派に捕らえられて獄中死しますから実体は不明です。銭屋捕らわれるの情報が入って太平次の配下が取引の証拠を隠したとも想像するのですが、何も資料が残っていないのです。

上野 イギリス人だとしたら、イギリスの

方に記録があるかも。

平田 そこまで調べた人はいないと思います。先日焼酎を飲みながら話している時に、息子がイギリスの当時の新聞に薩英戦争の記事があると、コピーを見せたのです。トップ記事はナイルの水源が見付かったとの絵入り記事で、一面の隅っこの方に薩摩と戦争したとの文章の記事がありました。別の日の新聞に硫黄島の写真がありました。イギリス艦隊が来る時なのか帰途に撮ったのか判りませんが、また写真か絵なのか判りかねますが硫黄岳が大きく載ったのがあります。イギリスの新聞に載っただけでも薩英戦争は大きな事件だとの理解でよいのでしょうか。

#### 硫黄島

平田 硫黄島に行くと、俊寛が流されたのは此処だ、喜界島ではないと実感出来ます。海面からいきなり700メートル余の硫黄岳が突っ立っているの、櫻島より迫力がある。山腹の随所で硫黄が燃えているので凄所だなと感じます。海の色は真っ赤に近い。硫化水銀が海水に溶けているです。それこそ地獄に入ってきたような錯覚を憶えながら港に入っていくのです。宿泊客も滅多に来ない所でしょうから、民宿の主人が親切に半日かかって島中を案内してくれました。足摺石があるとか俊寛が住んでいた所とか、此処に俊寛が来ては薩摩の方を見ていたとか。本土が見える所でないと流刑地としての意味はないのです。本土が見える所に流されると心理的に精神的に参るわけです。喜界島では離れすぎなのです。火山が燃え雷鳴が轟くのは硫黄島です。

今の硫黄島は多い人口ではないけど、若い夫婦が多く子供たちも比較的多いと思いました。夫は三島丸の乗組員として働いている。

収入があるから若い奥さんがいて子供たちも多い。鹿児島県の他の田舎より活気があるのです。ただ孔雀が増えすぎているのは頂けない。人間より孔雀の方が多いかも。

#### 戦艦大和の沈没海域

上野 戦艦大和が沈んだのは？

平田 口永良部島と黒島が最も近い。同じぐらいの距離（編集時後記：東経128°4′・北緯30°43′の位置で沈没）。口永良部島からやっと思えるか見えないかの位置だと思います。口永良部島には毎日鹿児島からの船が行きます。朝出て宮之浦港に昼着いて乗り換え、それから1時間40分で着きます。

最近、新聞で見たのですが、今まで黒島で一泊していた三島丸が黒島から枕崎まで航路を伸ばして枕崎で一泊する。次の日に逆回りで枕崎→黒島→硫黄島→竹島→鹿児島に帰って来る。三島丸は毎日本土とつながることになります。

口永良部島と黒島を、戦艦大和の沈没海域に最も近い島として宣伝すべきです。

#### 徳林神社

平田 徳林神社は軽大臣という人物が遣唐使として赴き、奴隷に身を落としたが硫黄島に帰り着いて祀られた、と。息子もまた遣唐使となっておちぶれた父親と再会するとの物語になっているのですが、話が現実離れしているので理解出来ません。

#### 柱松

平田 長門本平家物語には俊寛たちの鬼界島配流の前に柱松の風習が記事として載っています。硫黄島は柱松の行事が現在でも盛んです。偶然の一致にしては出来過ぎだと思います。長門本平家物語では俊寛とは全く関係なく柱松の話があるのです。そんなことを知

らずに、硫黄島の人たちは柱松を俊寛の霊を慰める盆の行事と理解しています。

#### 勘合符貿易

浜田 硫黄を運ぶ船や格納の倉庫が硫黄島にはあったはず。それを鹿児島に運んで他所に売っていた。

平田 西南戦争の時にも硫黄島には数万トンの硫黄があったとの記事があります。硫黄やカオリンを採取した工場があったので、その一角に倉庫があったのでしょうか。

浜田 数年前、辿り着けなかった問題。硫黄島の硫黄を積んだ船の行方を探したことがあるのです。勘合符十枚のうち九枚だけを使った。一枚を使っていない。その一枚が島津と関係があったのではと思って探したのですが。

平田 日本の火薬はずっとおくれるのですが、中国では10世紀の終りに火薬が発明されています。硫黄は火薬の原料として重要な商品でした。薩摩は硫黄を握っていたから貿易で大きな利益をあげる立場にあったのです。それと位置的にも中国に最も近い位置にあったのです。

浜田 勘合符を十枚出しているのに九枚しか使っていない。船は九隻しか行っていないのに十枚出している。一隻はどこへ行ったのか。旧記雑録やいろいろ探すのだけど。

平田 そういう細かいことは知りません。日宋貿易・日明貿易は、日本よりも中国側に記録が沢山あるはずですよ。

浜田 遣明船は17~19回。11回目に島津船の計画もあったが行っていない。調べて見ると博多までは行ったのだが、船団に加わっていない。島津船はどこに行ったのか、帰って来たのか。

平田 それは判りませんね。日本の文書というのはほとんどが政治的なもの宗教的なもので、通商関係の文書はほとんどない。今のような問題提起をされても回答は見付けられない。見付けるのであれば朝鮮側の日本関係の記事とか中国の交易関係の記事を洗って行く以外にないと思います。

浜田 何人も研究者がおられて、その論文を集めたのですが辿り着けませんでした。

平田 朝鮮とか中国との交易史を調べている研究者は少ないでしょうからね。

### 重野安禪

平田 583ページの最初に重野安禪が出て来ます。彼が書いた碑文が県下にいくつかあるようです。全部を見たわけではないのですが出水で数例見ました。西郷隆盛が許された後も薩軍を賊軍という表現で決めつけているので、彼の見方は厳しいなと感じました。

幕末・明治の学者は新しい時代の担い手ということで張り切っています。政府も近代化を進めるために歴史や地理などのまとめに努力しました。その一環で「皇朝史略」という本が出ています。十八史略にならって「大日本史」を省略したものです。水戸の学者が取り組んだ本です。そのような風潮のなかで、大日本地名辞書も作られたのです。

### 水路志

平田 明治政府の機関に水路部があり、日本各地海岸の測量を始めました。現在は海上保安庁の管轄となって、海岸の測量が続いています。水路志は明治15年から12年計画で海岸の記録をとったものです。

### 南方沿革史論

平田 583ページの一番下に幣原氏の「南方沿革史論」というのが出てきます。幣原 坦

(1870~1953)が書いたものです。吉川弘文館の「国史大辞典」によると、明治30年頃、鹿児島造士館教授でした。その頃は、まだ七高はないので、中学造士館の先生で来ているのです。それから始まって東京高師教授、東京帝大教授、広島高師教授、台北帝大初代総長になっています。その弟が幣原喜重郎で戦後の内閣総理大臣になります。

### 道州制

平田 最近、官僚は道州制の実現を盛んに言っています。そういう大きな組織になったら、地方の歴史とか地誌はまとめにくくなり容易に作られないことになります。今まで角川書店が作った日本地名大辞典とか、平凡社が作った各県の歴史地名などが出来上がって十年も経っていないのに、道州制が喧伝され市町村合併が進んでいます。今後日本はどういう形で歴史や地誌をまとめて行くのか。その辺の考察は今の官僚にはないと思います。歴史家は道州制の下では書けないと思うのです。「大男総身に知恵が回りかね」と昔から言います。大きな単位を作りすぎると、まとまらない。逆にそういう流れの中で、大字単位で歴史をまとめようという動きが民間で始まっています。官僚の目指す方向とは逆になります。道州制なんてものは賛成すべきではないと思います。

### 陰暦と皆既日蝕

青柳 来年の7月22日、トカラ列島で皆既日蝕が見られるとのことで盛んに報道されているので調べてみました。日蝕は新月の時に起きる現象です。新月の日とは毎月の朔日に当たります。また太陽暦でも陰暦でも大の月と小の月がありますが、陰暦では小の月が29日、大の月が30日になります。また三十日は

「みそか」とも言い、晦日(かいじつ)と書きます。昔の暦は大・小の暦と呼ばれるものがある、どの月が大の月になるか、小の月になるかが書いてありました。

太陽暦では二・四・六・九・十一が小の月で、二月が28日、他は30日。それ以外は大の月で31日になります。閏年は二月が29日になります。

浜田 閏年と閏月の決め方は?

青柳 二十四節気と呼ばれるものがありますね。陰暦の一年は360日よりも少ないので24で割ると、節気が一つしかない月が出て来ます。それをカバーするために閏月が設けられたのです。二十四節気のなかに冬至・春分・夏至・秋分など中気と呼ばれるものが12あり、中気を含まない月を閏月にしたのです。

陰暦は皇帝や天皇の治世年と十干十二支とを組み合わせて元旦がどの日に当たるかで年代が判るようにしていました。

また毎月の朔日を干支で表現することで、その月の日付が判る表現だったのです。

甲乙丙丁戊己庚辛壬癸甲乙丙丁…  
子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥子丑…

平田 歴史の中で最も難しいのが暦です。詳しく知りたい方は、国史大辞典の「暦法」や「閏月」の項を見て下さい。その他太陽暦(西暦)と陰暦とイスラム暦を見比べる必要があれば「三正綜覧」を見ると、それぞれの暦の日付が判ります。もう一つ、日付変更線による一日の違いも近現代史では気を付ける必要があります。

その他に西欧(グレゴリー暦)と東欧(ユリウス暦)との違いや、イスラム暦でもアラビア暦やペルシア暦、その他の暦などの違いがあり、まだ世界は一つではないのです。

### 小鳥神社

平田 少数例ですが、いわくがありそうな神社を拾いあげて、信仰地名として解説します。第1回に小鳥神社を取り上げました。

鹿児島県では神社(じんしゃ)と呼びます。若い世代は国語辞典のように神社(じんしゃ)と読みます。社(じゃ)は呉音、社(しゃ)は漢音です。「じゃ」の方が古い読みになりますが、鹿児島に方言のように残っている「じんしゃ」というのは、遣唐使が漢音を伝えた早い時期からの表現が染み付いているのだと思います。鹿児島では「じんしゃ」と発音するのが古く、「じんじゃ」はごく最近広まった表現になります。

鹿児島県で確認している小鳥神社は7か所あります。祭神は彦火火出見尊と木花咲耶姫が2例ずつ、それと神武天皇。2社は不明。木花咲耶姫をニニギノミコトが見初めて、彦火火出見尊が生まれます。彦火火出見尊とペアになるのは豊玉姫です。木花咲耶姫が何故登場するのか、首をかしげています。

鹿児島県の7社は国分周辺にかたまっている、離れているのは吹上町小野のものだけです。例祭は皆ばらばらですから、祭神・例祭から解釈することは出来ません。

県外を見ると、福岡県・山口県・広島県・香川県に限られます。違っているのは7.五島神社と8.香川県丸亀市本島(ほんじま)。これは塩飽本島という所で、瀬戸内海の東西から来た潮が分かれる所:塩飽水軍の本拠地があった処です。此処に木鳥神社があります。これだけはちょっと変わっています。しかも大きな神社です。

本島は文化財の密集地と言ってよく、昔の大岡裁きに出て来る白洲とか、遠山金四郎が

片膝立ちするような板敷がそのまま残っていて、それがそのまま歴史資料館になっています。また本島の人たちが咸臨丸乗組の半分を占めていたのです。勝麟太郎が本島でござり雇って行ったのが咸臨丸の乗組員だったのです。

本島だけが木鳥神社、他は小鳥神社です。鹿児島県の小鳥神社や県外の小鳥神社を見ても、県外の1.福岡市、4.福岡、5.防府、6.鞆浦、8.塩飽本島など、すべて港と結び付きます。立地から小鳥神社は航海神との見当が付きます。

厳島神社が世界遺産となり、世界遺産としての厳島神社を報道するNHKの特別番組がありました。漫然と見ていたら厳島を一周する神事があって糝(しとき)を空中に投げると鳥がそれを食う「鳥喰神事」というのがあるのです。鳥がうまく食うと豊作とみなすのです。その鳥を神鳥(ごがらす)との説明がありました。神鳥→五鳥(ごがらす)→小鳥(ごがらす)と変化したと理解出来ました。神の使者の鳥が神鳥(ごがらす)で、それが小鳥・木鳥に変化したのです。

由来の3.「こがらいどん」は民俗語彙辞典からの引用です。民俗学者が手分けして執筆したものです。鹿児島県の執筆者が説明したものの引用です。「国分周辺地域に分布する小社や森などの聖地をこがらいどんと呼ぶ。小鳥がご神体などに止まり、コガラス・コガラスと鳴くから」との解説が付いてあるのです。土地の人の話をそのまま書いたもので、民俗学では聞き書きを大切に手法です。コガラスと鳴くから小鳥ではないのです。神の使者の鳥が由来になります。神社の分布から考えての結論です。

上野 加治木の小鳥神社は、木田だと思います。元々反土にあったのかは判りませんが現在地は網掛川の西側ですから、木田地区になります。

平田 この反土は何を見たのかな。三国名勝図会か何かだった。(編集時後記:角川地名大辞典の説明に拠った)。これから加治木鳥の呼び名が生まれたとの説もあります。木田に訂正しておきます。

木花咲耶姫は彦火火出見尊の母親ということで出てくるのかな。神武天皇などが出て来るので、この辺の祭神は後世の人たちが勝手に名付けたのだらうと思います。

上野 国分が先で鹿屋が後と考えれば来た順番に比定出来るのではないのでしょうか。

平田 そうすると国分や東餅田は古いということだな。(編集時後記:木花咲耶姫→彦火火出見尊→神武天皇の順ということ。一般的には新しく作られたものほど年代を古く起源を遡らせる傾向があるので、新旧の断定は困難。とくに神代の話は手掛かりがない)。

例祭がうまく秩序立って並び見当が付けばよいのですが、ばらばらでは手掛かりになりません。また県外の例祭までは調べていません。

県内の場合は鹿児島県神社庁の人たちが作成した「神社誌」(昭和初め頃)と「ふるさとの御社」(昭和の末)が参考資料になります。それと「三国名勝図会」。「薩隅日地理纂考」もありますが、これは三国名勝図会の記事に基づいたものです。これらが神社調べの基本文献になります。これらを見ると例祭日が判ります。それらを見て言えることは、9月9日を例祭(正祭)とする神社は由緒が古い。各郷の総廟にそれが多い。

# 地名研究会報

第 103 号

平成 20 年 12 月 7 日

鹿児島地名研究会

- I. 第 103 回例会 平成 20 年 10 月 5 日 (日) 於西郷南洲顕彰館研修室  
(出会者) 青柳俊二・今村誠一・入来院貞子・上野堯史・内山憲一・川野雄一・  
西 郁朗・肥後吉郎・平田信芳・松浪由安・松元孝義・山下東洋

- II. 大日本地名辞書読会 P. 584~P. 585 竹島・黒島・七島

[話題となった地名および事項] 竹島・黒島・七島の概要、川辺七島と千竈氏、  
明治期の史書と地誌、南島の研究、南島に於ける平家の子孫、  
琉球帰属問題、竹島・尖閣諸島問題、日本の対外政策、西南戦争の  
後始末、私学校徒の火薬庫襲撃、南京事件、日本の植民地支配、  
106師団と145聯隊、国体護持と天皇制、トカラ列島

## 竹島・黒島・七島の概要

平田 竹島は細長い島で、殆どが岩山。硫黄島と共に鬼界カルデラの外輪山というか、火口壁になります。竹島には火山がないけど火口壁とすぐ見当が付きます。見渡す限り琉球竹が生い茂り、「竹島」の名の由来が理解出来ます。黒島は遠くから見てこんもり茂った森が黒く見えることで名付けられました。いずれ枕崎まで航路が伸びたら行き易くなるでしょう。

七島は昔からの延長で十島村と呼んでいます。十島村：トカラ列島は滅多に行ける処ではないけど、来年(2009年)夏、皆既日蝕が見られることで注目を浴びています。多くの人が訪れると泊まる所や水の確保に困るのでツーリストが大型客船をチャーターして日蝕を見に訪れる観光客を募集するそうです。

トカラは宝島が訛ってトカラになったのでしょうが、中国では吐火羅というのは古くから史書に出て来る中央アジアの国です。清朝の役人から見ると遙かインドの向こうからマレー半島を回ってやって来たとの印象をもつ

地域です。日本の領域とは違うと、誤魔化すためにタカラを吐火羅と称したと考えられます。清朝の使節が琉球に来た時には吐火羅の人たちだと誤魔化す。清朝の使節がない時は日本の端っこの住人だと理解する。それをわきまえて琉球の人たちはつき合っていたのです。

## 川辺七島と千竈氏

入来院 川辺七島とは？

平田 鎌倉時代の初め、幕府から千竈氏が川辺郡司として派遣されてトカラの島々を支配したので、川辺七島の呼び名があります。北は十三湊の安藤氏、南は川辺郡の千竈氏。安藤氏が北の海を支配、千竈氏が南の海：トカラの島々を支配していました。役目は流人の監督でした。硫黄島は俊寛らが流された島として知られていますが、鎌倉時代、流人の受け取り監視は千竈氏の仕事だったのです。

入来院 「チカマ」とはどんな字を書くのですか。

平田 「千竈」。黒島の説明の最後に「竈千氏」とあるけど、その反対。千竈・千釜と



いう名字は川内や長島に見られます。川内高校の生徒にいたのを憶えています。

川野 「かまち」という生徒の同級生がいました。

平田 どんな字を書くの？

川野 蒲池。

平田 そういう地名や名字はあり得るね。

### 明治期の史書と地誌

平田 明治の人たちは新しい時代になったことで歴史・地理など歴大な著作に取り組んでいます。天皇中心の中央集権化政策具体化の一つとして、歴史・地理の編纂が行われた後押しもあったのです。「大日本地名辞書」「古事類苑」「大日本史料」の編纂などは、その例になります。

### 南島の研究

平田 吉田東伍は南島関係の書籍を多く引用しています。P.585の上段、後から8行目「白野氏七島問答」もその一つ。白野夏雲が著した「川辺郡七島問答」明治17年、のことです。白野夏雲(1827~1899)は甲斐国(山梨県)出身で、内務省地理寮に勤務、のち鹿児島県勸業課長になっています。

中段、前から5行目、「南島誌」は新井白石が1719年に著した琉球国に関する地理書です。下段2行目「括地志」は中国の南島誌。4行目の「和訓栞」は江戸時代の国語辞典。6行目の「中山伝信録」は清朝から琉球に派遣された冊封使節の記録です。

有名なのは青森県出身の笹森儀助(1846~1915)です。明治27年、大島島司となって十島や琉球などを踏査して「拾島状況録」「南嶋探検」などを書いています。彼の「南嶋探検」や「千島探検」は明治天皇も読まれたと言われています。

その後の南島の研究では柳田国男「海上の道」が知られています。現在鹿児島県の民俗学者たちが盛んに南島を取り上げていますが明治の人々の調査が基本になっています。

歴史・地理の研究は明治後半から昭和半ばまで、大きな断絶があります。日清・日露戦争以来第一次大戦・第二次大戦と続いて人々にゆとりがなかったからです。昭和後半から平成にかけて、それが見直されつつあるのは自分の国を知ろうとする動きがあること示します。

### 南島における平家の子孫

上野 奄美やトカラ辺りでは、平家の子孫ということがよく言われますが。

平田 トカラ列島や三嶋辺りの平家の子孫というのは、いわゆる川辺平氏です。川辺平氏は平安末に薩摩国に移って来た肥前平氏の流れを汲んでいます。それが拡がって行って平家の子孫という伝説が生まれて来たと思います。平安末に平家の人々が船を仕立てて南島に移って行くということは源氏と戦うより大変だったと思います。

上野 遣唐使のルートに南島路という島伝いのものがありますが、それとの関連は？

平田 遣唐使のルートを考える時、屋久島と口永良部島の間から大隅海峡へと流れる黒潮分流の存在は大きい。明州(寧波)から船出した遣唐使船は対馬海流かこの黒潮分流の流れに乗って帰国したと思うのです。そういうことで南島経営が重視され、多祢国が置かれます。奈良時代は大宰府の後押しで積極的に多祢島の経営が行われ、大宰府から派遣された官吏もいたのですが、9世紀になると経費だけかかって大変とのことで廃止されたと思うのです。

本土から南島に伸びて行った勢力を追究するのは裏付けが難問だと思います。

入来院 後の時代になると、どうなのでしょう。

平田 後の時代は奈良時代から七~八百年経っています。明の時代になると、15世紀の勘合符貿易の他に、倭寇と呼ばれた私貿易があります。明の方も薩摩の湊が倭寇の最大の根拠地と見て実際に調べに来ています。また倭寇には朝鮮および中国に手引きする者たちがいたことも見逃せません。倭寇の文字から日本の荒くれ海賊と思いがちですが。

### 琉球の帰属問題

入来院 琉球の帰属は？

平田 明治になってからも琉球の人々は、清に付いた方がよいか日本に付いた方がよいか、天秤にかけていた面があります。最終的に琉球が日本の版図に入ってくるのは、日清戦争の勝利で外交問題が決着してからです。

### 竹島・尖閣諸島問題

?氏 竹島とか尖閣諸島の問題はどのように考えたらよいのでしょうか。

平田 江戸時代、竹島には出雲国や石見国人たちが渡って行って、朝鮮の人たちと一緒に漁をしていました。もめごとが起きた時、幕府に注進すると、そんな遠い所まで目が届かないから向こうにやっしまえと、老中から沙汰があったのだそうです。ということは、幕府が朝鮮領だと認めたことになるのです。歴史家はそういうことを知っているから竹島問題を取り上げないということのようです。

?氏 そういうことは論文に書いておかなければ。

平田 そのことを書いたら、あなたは敵に塩を送るのかと言われたらしい(笑い)。

大韓航空に乗ると、韓半島・東海：日本海の地図がスクリーンに大写しされる。ソウル・独島・東京だけが注記されている。独島は韓国領だと世界中に宣伝しているのです。日本航空が竹島は日本領だと地図で訴えることはあり得ない。国際世論を喚起する面でも完全に立ち遅れています。

日本では歴史家は邪魔者扱いとの認識で、マークされているから殆どの歴史家は憂世のことに発言しません。学生時代、小笠原諸島の返還が話題になりました。当時アメリカの大学の論文は小笠原諸島の発見は日本よりも早かったとの説が目白押しでした。外国ではそういう形で歴史家を動員するのに、日本はそのようなキャンペーンをやりません。

上野 小笠原の名前自体、日本の発見者：大名の名前に由来しています。

平田 小笠原という大名が探検に行き行って発見したから、その通りなんだけどアメリカの方は Bonin Islands と命名しています。捕鯨船でやって来て偶々日本の猟師と出会った島の島かと尋ねた。無人(ブニン)と答えたことから、Bonin の名がついたのだ、と。

領土問題というのは隣家との境界以上に事が面倒なだけで、日本の研究者は自分の殻に閉じこもって専門以外のことにくちばしを入れない。余計なことをいうと干させる恐れのあるのが日本の社会だから。

尖閣諸島の場合、沖縄の漁師たちが頻りに出かけた所だと思っています。中国側で魚釣島と呼んでいますが、一体誰が魚釣りをしたのか、その命名の追究がされていません。尖閣と命名したのは日本側で恐らく笹森儀助あたりが尖った建物に似ている景観とのことで名付けたと思います。

日本側は明治の初め、地理寮をはじめとして南の方を徹底的に調べています。それには琉球帰属問題もからんでいたと思います。その時に調べた資料が基本文献になっているのです。明治天皇もそれらの資料を読んでおられたとのことです。それ以来継続的な調査はなされなかったと思います。

国際問題を世論として盛り上げるためには調査・研究が前提となりますが、外交問題となる地域について外務省の職員も調べているとも思えないし、大学の人々も取り組んでいるようには見えません。新聞社が集めた情報が資料となっているのが実体だと思います。

#### 日本の対外関係

平田 日本は第2次大戦後の領土の後始末がうまく行っていません。北方領土・竹島・尖閣諸島の三つを抱えています。同時に三方と争うなんて大変なことです。世界の歴史を振り返ると、他の国は喧嘩する場合敵は一つに絞っています。二つ敵を抱えた国は負けています。

日本はいくつも敵を作って来た歴史があります。支那事変をやりながらソ連とノモンハン事件を起こしてみたり。ノモンハン事件なんてのはぐら負けだった。ノモンハンには南九州の若者：現役兵が征って負けました。北で失敗し、戦争が長引いて石油が足りないと、南にねらいを変えます。南に向かいフランス・イギリス・オランダ・アメリカと対立して敵を増やすばかりでした。無敵皇軍との神懸かり的なうぬぼれで馬鹿げた戦争をしたのが日本でした。

上野 それが大和魂だった。

平田 そんな嫌な流れを作ったのがノモンハン事件。作戦を指導したのが、辻政信だっ

た。失敗を自覚せずにのし上がって行ったのも事実です。

？氏 インパール作戦の計画も辻政信です  
**西南戦争の後始末**

平田 勝ち戦は手柄話がいろいろ書かれます。負け戦は自慢にならないので放置されず。身近な例、西南戦争の後始末をやらぬから敗北の実体が判らない。

上野 西南戦争で薩軍も官軍も優秀で勇敢な将校たちは、ばたばたと死んだ。生き残った素質の悪い連中の子孫が、その後の日本陸軍・海軍をリードしたと考えられます。その人たちは安全な後方にいて、敗戦の苦しみを噛みしめていません。

平田 今日日本で世襲の国会議員が増えつつあるのも警戒しなければならないことです。日本の歴史のなかで一番大きな問題は東条英機なんてのがのしあがって、石原莞爾など頭の切れる人物が干されてしまったことです。

今、西南戦争で生き残った人物の記録を整理していますが、同一人物の記録にも口供書と上申書とがあり、見比べるとそれぞれ違いがあります。口供書は九州臨時裁判所での調書で、これにもとづいて刑〇〇年が言い渡されたのです。中隊長5年、小隊長3年、半隊長2年、分隊長1年が相場です。小隊長・半隊長・分隊長が実践部隊の指揮官で、三役と呼ばれます。上申書は刑が確定し、各地に振り分けられた監獄で戦闘の状況などのびのびと書かせているので、本音が書かれています。口供書はへまなことを言えば刑が重くなるとの心配もあったのか、隠していることも多いのです。

#### 私学校徒の火薬庫襲撃

平田 火薬工場のことでは調べられたのは高

江郷の川上親平という人物です。稲荷町にあった火巧所に勤めていた人物です。明治9年7月東京から鹿児島に転勤して来ます。9月になって火巧所にあった150万発の弾薬を私学校徒がねらっているとの噂を耳にするのです。これは大変だと考え所長(新納軍八)に報告するのですが、そんな馬鹿なことはあり得ないと無視されます。11月になるとそんな話を誰かが西郷さんの耳に入れたらしいのです。西郷さんはびっくりして政府の物をとろうとは何かと私学校の者たちを集めて叱つたとのことを書いています。

西南戦争の口火となるのは明治10年1月末から2月初めにかけての私学校徒の火薬庫襲撃だったのです。話を戻すと、明治10年11月に西郷隆盛が私学校の連中を叱った。そこで火巧所もこれは大変だと考えて、東京に危険だから船を出して弾薬を東京に運んで欲しいと要請するのです。すると鹿児島で船を雇えと返事が来るのです。私学校の勢力が怖く、船を出そうという者はいませんでした。その旨を報告すると、政府がようやく弾薬運搬船赤龍丸を鹿児島に向かわせたのです。

私学校徒が弾薬をねらっているとの話を桐野利秋も11月段階では知って、政府所管の弾薬をねらうなんて馬鹿なことをするな、西郷さんは政府が間違ったことをしたら、それを正そうとの考えだ。自分たちが悪いことをしたら政府を非難することは出来なくなると戒めています。

私学校徒の襲撃5ヶ月以前に、火薬庫などをねらっていたとの話、私学校幹部が3ヶ月以前に若者たちが弾薬をねらっていることを耳にしていたことなど、従来歴史家から説明されたことはありませんでした。

私学校徒の火薬庫襲撃は突発的事件でなく政府側の挑発行為によって引き起こされたものでもなかったのです。

#### 南京事件

平田 南京虐殺事件で最初に処刑されたのは第六師団長。次が百人斬競争をやった二人の将校。そのうちの一人は鹿児島一中から士官学校に進んだ人物。ということで鹿児島県出身者が南京事件に関っていたと見てよいと思うのですが、そのような話は漏れて来ません。当時の生き残りが少ないのかも知れませんが、鹿児島45聯隊はブーゲンビル島で殆ど亡くなっています。もう一つの145聯隊：第二の45聯隊もほとんど全滅の状態です。

南京攻略から武漢作戦に移る段階で蒋介石軍から山岳戦に引っ張り込まれて聯隊長・大隊長が戦死しています。生き残りはノモンハンに投入されて戦死。さらに生き残った連中は硫黄島に回されて全滅状態。だから145聯隊とか123聯隊(都城)はその実体が判らないのです。南京の一番乗りは都城の聯隊。南九州の者たちが南京事件を知っているはずだが、話が伝わっていません。

南京虐殺にかかわったのは第一線で戦った聯隊ではなく、後からやって来て残敵掃討・治安維持に当たった京都の聯隊だと言われていました。南九州の連中は第一線で戦っているから戦闘での殺傷と中国側が問題視する虐殺事件とは別だと見ているのかも知れません。しかし第六師団長が戦犯として最初に処刑されたのはどういうことなのでしょう。

#### 日本の植民地支配

平田 小学校に入る前、抗日分子のさらし首を見たことがあります。日本軍から見れば匪賊ですが、中国側から見れば侵略者日本に

抵抗した~~た~~勇士になります。江戸時代以前日本ではさらし首は随所で見られたのですが生首は気味が悪く、半世紀以上経った今でも怖い生首の夢を見ることがあります。

昭和20年8月上旬、夏休みということで動員先から自宅に帰っていました。8月18日、学校に集合して教練用の武器を日本軍の武器庫に納めたのが、事実上中学校の解散式でした。8月28日八路軍（中共軍）、9月1日にソ連軍が進駐。無防備状態になった日本人に対して民衆の掠奪・暴動が始まり、日本人の家は片っ端から焼打ちされました。父が満鉄社員だったので満鉄社宅に住んでいました。満鉄は資材・技術を持っていましたので社宅の周囲にすばやく鉄条網を張りめぐらし電流を通して、人が入って来れないようにしたのです。他の所に住んでいた日本人は着のみ着のままの丸裸にされ、全くみじめでした。

最初に焼打ちされたのは日本人が建てた神社です。植民地の支配者となって日本人の居住地に神社を建てるのは、まあ理解出来ますが、そこに中国人を参拝させたら反感を買うのは当然です。日本人は行った所に神社を建てました。それが日本の感覚で、皇国史観を拡げる結果になったのです。

満洲だけにとどまっていたら、世界から叩かれることもなかったのではと思うのです。はみ出して行ったから叩かれてしまったのです。清朝は元々満洲族の国です。溥儀を担ぎ出したことで傀儡政府だと非難されますが、彼は純然たる満洲族清朝の王族だったので、それを盛り上げると主張すればそんなに怨まれないだろうにと思います。ただし朝鮮からは怨まれたでしょう。完全に植民地化し創氏改名まで押しつけたのだから。

2001年6月、団体旅行から一人オプションで昭和21年まで住んでいた所を見に行きました。在地の中国人たちでなく、山東省出身の連中がわんさと入って来ていたのです。北満の方は昔とあまり変わっていませんが、南満洲は山東省からの移民で違った世界になったと感じました。

？氏 台湾ではどうだったのでしょうか？

平田 台湾は産業開発に貢献したとのことで感謝されているそうです。

上野 沖縄・奄美に対する薩摩の支配も植民地支配だったと見ることも出来ます。

平田 なるほど、そうですね。先程の山東省からの移民が日本の敗戦後だけのことでなく、戦前から徐々に始まってはいたのです。中国本土は貧しいながらも人口が溢れていました。豊かな南満洲に移ろうというのは必然的な動きでもあったのです。南満は渤海を渡ればすぐの土地ですから。しかし日本人がいなくなっただけの南満洲のさま変わりには異な感じを受けました。

#### 106師団と145聯隊

？氏 先程の145聯隊というのは？

平田 145聯隊の成立は昭和13年です。最初の聯隊長は七高の配属将校でした。七高同窓会の会報にその配属将校が負傷して帰国、軍法会議にかけられるとの話があるのです。敗北の責任を問うものだったのでしょうか。

その流れに気付いたのは、去年の春、草牟田墓地で偶々横山中佐の墓を見てからのことでした。大隊長で戦死とあったからです。大隊長とか聯隊長は滅多に戦死する存在ではないのです。

？氏 真珠湾攻撃の横山少佐ですか？

平田 海軍ではなく陸軍の横山中佐です。

碑文の最後に「第 師団長 松浦淳六郎」と師団番号を伏せた師団長の名があったのです。その師団を探して行くと106師団が出て来たのです。これも第6師団の派生的存在と判り、配下に113聯隊（熊本）・123聯隊（都城）・145聯隊（鹿児島）・147聯隊（大分）があったことも判りました。

？氏 123聯隊は南九州出身ですね。

平田 第106師団は敗北によって復員解散師団とされたのです。生き残った連中が敗北の事実がばれないようにばらばらにさせられたのです。

薩摩の戦闘には特色があります。関ヶ原の戦いに島津義弘は千人連れて行くのですが、鹿児島に生還したのは90人いなかったのです。西南戦争でも明治10年2月北上したのは総勢13,500、9月1日鹿児島に帰り着いたのは四百人いなかった。全滅に近い状態でも負けと思わないところに薩摩的感覚があります。

小さい時から「大将倒し」という遊びをして、大将が降参と言わない限り負けじゃないのです。だから兵隊がほとんど死んでも戦い続けたのです。

？氏 沖縄戦の司令官牛島中将は、たしか鹿児島の人。

平田 鹿児島一中の配属将校でした。一中の教え子たちが甲突河畔に牛島中将の碑を建てた気持も理解出来ます。ところが沖縄出身者はそれを見て胸くそが悪いというのです。

牛島さんも106師団が手痛い打撃を受けた時、その配下の旅団長だったのです。彼の場合は揚子江左岸を進んだので損害を受けていないけど、右岸の山岳地帯に進んだ部隊はひどい目に遭ったのです。鹿児島の若者は向う見ずの攻め方をするので、あっちこっちで負

けるのです。勝つ時が多いので、負けた話はいつの間にか消えるのです。

？氏 辻政信の作戦は失敗だったと気付かなかったのですか？

平田 ノモンハンで失敗した時からおかしいと突き上げられていたらよかったのだろうが、彼は逆に出世しているのです。戦争のまとめがいい加減だったから、失敗に気付かないのです。

#### 国体護持と天皇制

平田 国のために戦死した人を祀る気持はどここの国でも同じだとの論があります。日本の信仰を考える場合、靖国神社や護国神社は設立されてから、まだ140年になりません。それ以前からの住吉神社・八幡神社・諏訪神社など沢山ありますが、本社は別として多くは没落しつつあります。過疎化現象と共に深刻な現象です。そちらの方が問題だと思うのですが。

太平洋戦争末期ポツダム宣言受諾をめぐって重臣たちがこだわったのは国体護持：天皇制の維持ということでした。その展開として戦後は天皇の象徴性が強調されました。

？氏 その辺のところが、まだよく理解出来ない。

平田 われわれの世代から上は国旗掲揚・皇居遙拝など徹底して現人神天皇を教育されたけど、戦後育ちはそれが無いわけだね。

？氏 毎年皇居参拝団が募集されますが。

平田 皇居参拝団のことは知りませんが、宮内庁関係の職員というのは伯父・伯母が勤めていたとかの身元保証がずーっと継続されているようです。また天皇制が生きているのは、文化勲章とか紫綬褒章とかを皇居で貰う人は感激するわけで、それで維持されている

面もあります。

### トカラ列島

？氏 トカラの火山は？

平田 硫黄島・口永良部島・諏訪之瀬島などは霧島火山脈に属します。

？氏 鬼界カルデラと説明がありました

平田 竹島は火口壁、硫黄島は中央火口丘と見てよいでしょう。カルデラの規模は知りませんが、相当大きなものと考えられます。

赤ホヤ（赤ボッコ）と呼ばれる火山灰層は、6,300年前（B.P. 6,300）の鬼界カルデラの噴

火によるものです。

硫黄岳は三島丸の船上から見ると、海面からいきなり700m.の火山が突っ立って山肌の随所から硫黄が燃えて白い煙りが立つ景観は迫力があります。また海水の色も硫化水銀が溶けて真っ赤なもの、なるほど鬼の棲む世界と感じたはずだと合点します。

青柳 来年7月トカラ列島で見られる皆既日食のカレンダーを作成して来ました。必要な方はお取りください。差し上げます。

《地名学ノート、1》

## 小立山

1. 平成20年11月16日（日）薩軍城山帰還路調査会の6名（上野堯史・内山憲一・川野雄一・平田信芳・二見剛史・米原正晃）は吉田・吉野地域の現地踏査を実施した。
2. 当日のねらいは①吉田東麓の柏原宅、②カキ坂、③小立山の確認であった。  
①・②は後日の報告に譲る。2万5千分1地形図に「立山」の注記があり、その近辺に小立山があると見た。立山・小立山の位置とよみの確認に努めた。
3. 立山（タッチャマ）・小立山（コタッチャマ）の字が川上小学校の北と南にあり、小立山（コタツヤマ）姓が2軒あることを聞き出せた。小立山家で裏山が小立山と聞く。また「小龍山」と書くのが本来の表記との説明を受けた。

以下、各種辞典からその説明の要点を抽出する。

### (1) 立山・館山（たてやま）

- ①館のある山、②狩猟・伐採などを禁じた山、③集落の共有で仕立てている山
- ④集落共有の山、⑤木を切らずに置く山 など 「地名用語語源辞典」

### (2) 館（たて）

- ①奈良朝以後の屯田集落、②昔の豪族の屋敷跡 など 「地名用語語源辞典」
- ③東北地方に多い豪族集落を示す地名、④西日本（城山）⇔東日本（館山） 「民俗地名語彙辞典」

### (3) 立山：古くは「タチヤマ」近世以降「タテヤマ」（角川日本地名大辞典、富山県）

江戸時代：館（タチ）→明治以降：館（タテ）（角川日本地名大辞典、石川県）

### (4) 島津氏の城構え：館造（タチヅクリ）。これを現在「ヤカタヅクリ」と呼んでいる。

館（タチ）→館（タテ）の変化は、3母音から5母音の変化に由来すると考える。

龍尾（タツオ）町は明から竜王（雨乞いの神）信仰が入ってからの呼び名である。

# 地名研究会報

第 104 号

平成 21 年 2 月 1 日

鹿児島地名研究会

- I. 第 104 回例会 平成 20 年 12 月 8 日 (日) 於西郷南洲顕彰館研修室  
(出会者) 青柳俊二・岩屋幹夫・上野堯史・川野雄一・寺田守男・永井富夫・  
久永耕三・平田信芳・前田忠次・松浪由安・柳原孝一・山下東洋 (計 12 名)
- II. 大日本地名辞書読会 P. 586~P. 587 奄美・名瀬・徳之島・沖永良部島  
〔話題となった地名および事項〕 吉田東伍略歴・原田のよみ・奄美の地名・  
ペリーの琉球来航・奄美の神社・宇宿という地名・八幡神社と熊野神社・  
祈願所と菩提所・鹿児島を中心的神社・小立山・伴掾館跡・道州制と市町村合併・  
奄美と新聞・西南戦争の見直し

## 吉田東伍略歴

平田 吉田東伍の履歴を調べてみました。いわゆる学歴はありませんが、すごい経歴の持主です。小学校教師になる検定試験に全科目合格し、郷里新潟県で教師になりますが、すぐ退職。北海道に渡り、鮭とりの漁師になります。漁師生活の中で『日韓古史断』を著し、一躍学者として認められます。続いて今読んでいる『大日本地名辞書』を独力で書き、世間から凄い人だと認められます。有名な歴史学者喜田貞吉の推薦で東京専門学校(早稲田大学の前身)の講師、次いで早稲田大学教授となり、学者として不動の地位を築きます。明治という時代は非常に面白い時代ですね。学校を出ていなくても自力で著書を出し、早稲田大学の地歴教授として一世を風靡したのですから。現在でも『大日本地名辞書』は復刻され、珍重されています。地名研究の原典です。

## 原田のよみ

上野 福岡県の原田。先程「ハラダ」と読まれましたが、「ハルダ」と読みます。

平田 なるほど。原の読みは九州では「ハ

ル・バル」ですね。平凡社の歴史地名大系はせめて九州各県は揃えようと考えていましたが、福岡県だけは買いそびれました。九州各県のものは一応もっておくと役立つこともあると思います。

上野 平凡社の歴史地名大系は全部 I.T. 化され、去年の 4 月から 7 月まで執筆者は無料で検索・コピーすることが出来ました。その時資料をコピーしました。

平田 そのことは連絡がありました。九州各県については購入するつもりだったので、コピーは考えませんでした。

上野 今は地名を調べるには、数万円の検索料を払わないとコピーは出来ません。

## 奄美の地名

平田 今日のテーマが奄美の地名の検討ということで、初めての方が多く見えておられます。角川日本地名大辞典には各県の巻末に小字一覧が付いています。奄美の小字は大半がヤマト風の読み：標準語的な読みになっていますが、龍郷町・笠利町・宇検村・大和村・徳之島の伊仙町・徳之島町・沖永良部島の和泊町・知名町などは方言の読みを掲げて

います。これらの町村の方言の読みが奄美の地名の由来を考える時、役に立つ貴重なデータになると思います。

最近注目されているのが、城（グスク）という地名です。どこまで広がっているのかというと、トカラの臥蛇島に「グスクの浜」というのがあります。

砂浜の「カネク（金久・兼久）」という表現、これは十島村の宝島にあります。

舟泊りを意味する「籠（コモリ）」という地名、これは三島村の竹島にあります。

以上のことから、その辺まで琉球方言が広がっていたのだらうと思います。上野さんは奄美大島の勤務、あんたは？

川野 喜界島です。

平田 喜界島には行ったことはないけど、この会で佐野さんが喜界島の地名を説明したことがあります（会報23号）。現在は繁昌君が転勤して喜界島にいます。なお喜界町と瀬戸内町の小字は角川日本地名大辞典には収録されていません。

川野 雁股の泉には為朝伝説があります。

？ 雁股の泉とは？

平田 源為朝が住人がいるのかどうかを試そうとして雁股の矢を放った。その矢が突き刺さった所に泉が湧いたとの伝説があるのです。源為朝が保元の乱後、八丈島に流されますが、そこから沖縄に渡ったというのです。その途中で喜界島に立ち寄り、雁股の矢を放ったというのです。沖縄：琉球に渡って後、為朝の子孫が琉球王になったとの伝説があるのです。

#### ペリーの琉球来航

？ 為朝が渡ったというのは黒潮の逆流に乗って行ったのでしょうか？

平田 逆流があるのかな。黒潮の流れに逆って行っています。逆って行けば辿り着くわけです。

？ アメリカの捕鯨船が小笠原諸島にやって来た話と似ている。小笠原諸島は鯨を追って来たのは理解出来るけど、どうして琉球に行ったのかと、いつも考えています。

平田 アメリカ船が日本にきた最終目的は中国だった。中国の情報を得るために琉球に来たということでしょう。

川野 ペリーの艦隊は喜望峰を回って来たのでは？

平田 日本に開国を迫って、返事は来年とのことだったので琉球に向かい情報を集めたのです。

上野 ペリーは小笠原諸島→日本（浦賀）→琉球へと行った。台湾でなく琉球を選んだのは何故だろう。

平田 台湾より琉球の方が便利な湊が多かったのでしょう。

？ 台湾は現在、独立した地域。琉球も日本の端っこという感じでなく、台湾と同様に琉球国として独立した形の方がよかったです。数十年後には台湾は中国の一部になるでしょうし、韓国は対馬の事実上支配をねらっています。北方領土どころの話ではないのではないか。将来は軍事力よりも経済力が国境を決め、島々の将来を決定するのではないか。

#### 奄美の神社

平田 奄美の神社を地図から拾い上げて分類したことがあります。奄美の信仰は原初的には御嶽（ウタキ）信仰とノロの祭祀。言語としては、奄美方言は琉球方言の一部です。

琉球・奄美は慶長14年(1609)島津家久の

軍勢によって征服され、いくなれば植民地になったわけです。そして始めて日本の神社が強制的に建てられていったのです。

奄美の神社の名前ですが、地名を付けた神社はウタキ信仰・ノロ信仰をある程度残しながら神社の形を受け入れたものです。そうでなく八幡とか住吉とか巖島神社というのは日本の神社をそのまま受け入れた所になります。特色のあるのは平家落人伝説を強調する神社です。平行盛や平有盛を祀った行盛神社とか有盛神社、諸鈍にある大屯神社、笠利にある蒲生神社、龍郷の今井権現。これらは本来的には熊野権現系統です。奄美では権現をグンギンと言っているようです。伊仙町の喜念グンギン。グンギンは平家伝説と結び付いているのです。

奄美は海に囲まれた島々ですから、航海神が最も重要になります。日本内地で航海神として知られた神社で、奄美にあるものを拾いあげてみると次のようになります。

巖島神社（9例） 八幡神社（6例）

熊野権現（6例） 金比羅神社（3例）

住吉神社（1例）

日本本土で巖島神社を名乗るのは巖島近辺だけなんです。鹿児島県にはあまりないのです。阿久根に1カ所あるだけかな。三国名勝図会にはほとんど出て来ません。奄美にある巖島神社というのは平家伝説と結び付ける意味で積極的に巖島神社と名付けたのではないかと。これは明治になってから奄美で広がったと思います。

本土で一番古いのは住吉神。次が八幡神と熊野神。金比羅神は江戸時代に本土で広がります。

？ 高千穂神社というのが多いのですが。

平田 高千穂神社というのは本土にはないのです。高千穂峰にニニギノミコトが降臨したということで鹿児島県から発生した神社と考えられますが、鹿児島県本土にはないのです。奄美の高千穂神社は明治になってからの国家神道の普及によって建てられて神社だと考えます。

上野 島津の侵攻によって神社が造られた  
平田 そういふことです。

上野 住吉神社もそれ以降。巖島神社は？  
平田 最も新しい。

上野 平家伝説に結び付けられた？八幡は  
平田 八幡は倭寇が八幡大菩薩の旗を掲げて行くから倭寇が活躍した頃でしょう。熊野水軍が活躍するのは南北朝時代です。

本土から流入した別系統の神社は次のような数になります。高千穂神社（12例）、菅原神社（7例）、秋葉神社（4例）。秋葉神社は火除けの神で大火を経験した集落にあります。菅原神社は明治末に流入した学問の神。農業神・牛馬神・漁業神として流入したのが保食神社（3例）、馬頭神社（1例）、蛭子神社（1例）だと思います。

奄美の神社で「地名+神社」の形のものウタキ信仰を残しながら島津氏の支配下にあることから、薩摩から持ち込まれた神社の形態を受け入れたと思うのです。同時に本来の信仰も守る必要があったのです。沖永良部島では和泊に代官所があったのでその近辺にはヤマト風の神社、知名は離れているので在来神と融合した神社になります。喜界島もそうだと思います。

このように整理すると高千穂神社の成立も判って来ます。明治維新というのは神武創業に立ち戻って天皇中心の中央集権国家の樹立

することだったのです。明治天皇は北朝系統ですが、南朝のために尽くした人々を忠義の権化として称賛します。天皇を現人神として崇拜する国家神道が唱えられ、奄美だけでなく新たに植民地となった朝鮮・満州の各地に神社が造られます。奄美で多く造られたのが高千穂神社だったと思います。高千穂神社は鹿児島県本土にはほとんどないのです。

？ それはカトリックに対抗するためだったと思うのです。

平田 なるほど。それは兎も角としても、奄美でどのようにして日本の文化・信仰を採り入れようとしたかの歴史が判って来ます。

#### 宇宿という地名

？ 宇宿貝塚で知られる宇宿(ウシュク)は？

平田 大分県にも似たような地名：臼杵があります。臼杵は臼になる木が生えていた：大木を削り抜いて臼を作ったということからの呼び名でしょう。こちらでも指宿という地名があり、「スキ」は古代朝鮮語系統ではないかとの説もありますが、古代朝鮮語での分析は未開拓の分野です。

鹿児島市の宇宿(ウスキ)も由来がよく判らない。和名抄に麩島郡の郷名が三つあげてあります。都万・在次・安薩。在が有の誤記だと仮定すると有次はウスキと読めます。しかしこれも墨書土器などの出土がない限り決め手にはなりません。

#### 八幡神社と熊野神社

平田 八幡が先か熊野が先かを考える時、南種子の真所八幡がまず思い浮かびます。真所八幡は多祢国府のそばにあった八幡です。全国的に見ると国分八幡と呼ばれるもので、国分寺の側に鎮守神としての八幡が必ずあるのです。その観点からすると多祢国府と真所

八幡は密接に結び付いています。種子島にある八幡は一カ所だけで、他の村はほとんどが熊野神社が鎮守神です。三島村の硫黄島は熊野神社に安徳天皇が祀られており十島村の島々は八幡神社が鎮守神になっています。

航海神の観点から見ると、八幡神より以前に熊野神が広がったと考えられます。熊野水軍が南朝側の水軍として勢力を拡げ、その後倭寇が八幡大菩薩の旗を掲げて勢力を振ったので、八幡神も航海神として崇められたと推定出来ます。

琉球八社と呼ばれるものが沖縄で最も古い神社で、八幡社が一つ入っています。これらは島津の征服より以前に入ったものです。臨濟宗の寺院が日明貿易・琉球貿易に関わったことから伝わって行き、それに神社が結び付いていたのです。島津氏に征服されてからは臨濟宗の寺がすべて真言宗に変わったのです。

#### 祈願所と菩提所

？ 神社が奄美に入って行ったのは理解出来ませんが、仏教が奄美・琉球に入っていくのはよく判りません。

平田 江戸時代に入ってから、島津支配の各郷で祈願所(祈願寺)は真言宗寺院、菩提所(菩提寺)は曹洞宗寺院という形態が確立します。島津の征服後、奄美・琉球に入って行った宗派は真言宗になります。

もう一つ大事なことは祈願所の側に必ず鎮守神すなわちその郷の総廟(総社)：中心的な神社があるのです。寺と神社が表裏一体の存在で祈願所は鎮守神を伴っていたのです。

？ 照国神社は元々お寺だったのでは？

平田 南泉院という天台宗の寺がありました。21代に吉貴という殿様がいます。島津家は初代から5代までと21代が時宗を信仰しま

した。他はすべて曹洞宗で菩提寺の福昌寺に葬られています。21代の吉貴だけは此処にあった浄光明寺に葬られていましたが、島津家の都合で福昌寺に移されました。吉貴墓の跡は竹の公園になっています。

？ 明治神宮とか霧島神宮とか鹿児島神宮など神宮の付くのは官幣大社で、照国神社は別格官幣社ですね。

平田 島津斉彬が亡くなると島津家はすぐに幕府の承認を受けて、照国大明神の神号を朝廷に申請します。近衛家の後押しもあったでしょうし、その裏には島津家からの献金もあったでしょうから、斉彬に神号が与えられたのは早かったのです。

#### 鹿児島の中の中心的神社

？ 鹿児島工業高校の裏にある鹿児島神社に、中心となる神社が行くべきではないかと思っているのですが。

平田 鹿児島の中心的神社は、鹿児島神社(宇治瀬神社)→一条神社(一之宮)→荒田八幡→諏訪神社(五社の第一)→照国神社の推移があります。政治権力の移り変りに関係していません。

島津氏が鹿児島を支配する以前の中心的神社は荒田八幡だと思います。清水小学校の西北隅から島津氏の祈願所大乘院(それ以前は鹿児島本城と呼ばれた清水城)の前にあった大乘院橋との間が坊中馬場(ぼじゅんばあ)と呼ばれ、その左右に大乘院の末寺が10軒並んでいた。その昔、坊中馬場の南端に仁王堂があり、仁王堂の東隣に福蔵院、西隣に千手院があった。福蔵院は荒田八幡の別当寺、千手院は内之丸にあった千手観音堂を移転させたものだった。千手観音堂は総州家島津氏

(薩摩国守護職)と奥州家島津氏(大隅国死語職)との争いで起きた悲劇の寺だった。島津氏第8代久豊(奥州家)が島津久世(総州家)に難題を持ちかけて軟禁し、久世が自刃殉死者11人を出す事件が起きた(1416年)のです。奥州家の後を継いで宗家となった伊作島津家(第15代貴久以後、現島津家まで)が千手院・福蔵院を坊中馬場の入口に配置したのも歴史的因縁を踏まえたと考えます。

？ 一之宮はどうなりますか？

平田 大隅国一之宮は鹿児島神社、薩摩国一之宮は枚聞神社になります。

？ 中郡の一之宮は？

平田 郡元の一之宮(一条神社)は枚聞神社を勧請した末社になります。

？ 照国神社は？

平田 斉彬を祀った別格官幣社でした。

#### 小立山

平田 会報103号の最後に小立山を説明しておきました。会報にスペースが出来たので埋め草としたものです。11月16日、薩軍城山帰還路調査会の6名が出会った地名です。2万5千分1図に「立山」の地名がみえるのでその側に小立山があると見たのです。聞き書きで「タツヤマ」・「コタツヤマ」という鹿児島方言の呼び名を知りました。

小立山(コタツヤマ)という名字が2軒あるとので訪ねると、裏山が小立山で本来は小龍山と書くのだと教えられました。母の実家の姓が立山(タツヤマ)で、県内に「タツヤマ」は多いのですが「タツヤマ」は少数派です。立山(タツヤマ)というのは今回初めて耳にしました。そこで辞典類を調べました。

(1)立山・館山(タツヤマ)：①館のある山、②狩猟・伐採などを禁じた山、④集落共有の山など、

民俗学的制約のある地名のようです。

(2)豪族の屋敷跡。東北地方に多い豪族集落を示す地名で、西日本は城山、東日本は館山の違いがあります。

(3)富山県に日本アルプスの一つとして有名な立山があります。古くは「タヤマ」と言っていたが江戸時代に「タヤマ」というようになった。

(角川日本地名大辞典、富山県)

その近辺で探すと石川県や金沢市に館(タ)が多く、それが明治になると館(タ)に変わっているのです。

(4)島津氏の城構え：麓に館(屋形)があり背後に詰め城(逃げの城)があるものを、館造(タヅクリ)の城と言います。今の歴史家は読みを忘れたのか「ヤカタヅクリ」と説明しています。

鹿児島県には館(タ)の語は「館造」が残っているだけですが、それが変化したものが堅馬場(タマバ)、堅野馬場になるのでしょう。国分にも堅馬場があります。これは館(タ)の近くにある道路に名付けられたものと考えます。立行司・立役者の用語から立馬場には代表的な道の意味があるのかも知れません。

これらのことから考えると、館(タ)→館(タテ)→館(タカ)の変遷が判ります。鶴丸城前の大通りには館馬場(タマバ)の名が残っています。

館(タ)と館(タテ)の違いですが、奄美方言に残る3母音が5母音に分化する過程すなわちi音がiとeに分化することから、tiとteに変化したとの見当が付きます。

小立山さんから聞いた本来は小龍山だったとのことについて、此处は上竜尾(カミツオ)町、竜尾の意味は忘れられています。昔、竜尾神社があったのです。竜尾は竜王が変化した

ものです。竜王は明から伝わった水神・雨乞の神です。島津家で竜王を祀り、雨乞をしたのは16代の義久です。随所で雨乞をして竜王を祀っているのです。

(編集時後記：川上の立山・小立山は川上氏の館に由来するものと考え。小立山は若殿の館を指すのだろう。島津氏第5代貞久の庶長子頼久の領地が川上村だったことで、川上を名字とした。川上氏は島津一族の名門)。

#### 伴掾館跡

青柳 鶴丸城が館(タカ)ということは説明を聞いたことがあります。鹿児島で館というのは伊敷の…。

平田 伴掾館(バンジウヤカトモノノヤカ)。

青柳 伴掾館(バンジウヤカ)というのは、鹿児島市の観光説明では山の上だということになっているけど、館は平地にあり、うしろの山に山城があると考えたのです。

平田 その通りです。館と山城がセットになっているのが館造(タヅクリ)の城です。

青柳 清水城の場合も麓に館、うしろの山が山城。

平田 そうです。城の役割というのは奄美の城(カス)も同様で、敵に攻められた場合、敵のねらいは若い男女の掠取にある。それを取られたら生産力にひびくので、住民を守るために山の中に逃げる場所が必要になります。山城の大きな役割は避難場所なんです。

青柳 麓に館、背後の山城というのは、時代的に新しい？

平田 朝鮮式山城という表現があるので、古い形態です。

青柳 避難場所が個人的な形で造られていくのは？

平田 鹿児島県の各地に残る麓(外城)は

背後が山城になります。麓は古来重要な場所で領主かその家臣しか住めないのだけど、周囲に一般農民が住んでいる。戦争になれば山城に避難させなきゃならない。

伴掾館の場合、伊瀬敷(イシキ)神社あたりに館があって背後の山が山城という組合せだと思う。伊瀬敷神社周辺を館跡と見て調べる必要がある。

青柳 インターネットで調べると、水田地帯に館があるのが多く見られます。

平田 水田地帯というのは湿地帯だから敵は攻めにくい場所だった。

青柳 館は街道沿いにあるとか。

平田 交通の要衝は館の立地条件として大事です。

青柳 伴掾館跡は山の上とは決められないと思うのです。

平田 あゝ、そういうこと。あの地域は甲突川・山崎川に挟まれた狭い範囲です。伴掾館跡のある一帯は近代になると45聯隊が置かれた所です。兵営が置かれた場所も歴史的に交通の要衝であったからということになる。そのような要件を遡っていけば、伴掾館までつながるでしょう。

青柳 伴掾館の範囲というのは、相当広く見た方がいいんじゃないか。

平田 それでいゝと思う。

? 昔は山城が多かった。集落ごとにあった。

平田 山城や沖縄・奄美のグスクは村人が隠れる避難場所と考えるとよい。

青柳 平安時代になると大名田とか名主と呼ばれるものが出て来ます。年貢を請負うような人たちは存在を示すために水田の真ん中に居住するのでは。そういう人たちは武士で

山城を持っていたわけですね。館を持っていたわけです。

平田 そういう人たちは山の麓に住んでおり「山下」という地名とも結び付きます。

#### 道州制と市町村合併

青柳 薩摩国ではいつ頃から武士が登場するのですか。

平田 それはよく判らない。薩摩国や大隅国は、昔は大宰府の管轄下で、あの時代は西海道と云って道州制があったのです。現在官僚主導で盛んに道州制が唱えられているけど、道州制のために薩摩国とか大隅国の州としての歴史は消えているのです。道州制にしたら財政的にも便利というけれども、小さな単位の自治体というのは将来的にその歴史が消えて行くことになるのです。歴史家の意見など聞いていないと思う。

上野 鹿児島市は合併して50万都市が60万都市になりましたが、始良3町なんか合併話がまた喧嘩別れをしました。蒲生町は鹿児島市の方を向いているのです。3町が合併したら、蒲生町や私の住んでいる加治木町の歴史は消えて、人口の多い始良町だけが生き残るのではないか。

そうすると、いろんな文化のためには個々の町があった方がよい。それでも加治木の奥地の方の歴史は加治木町史の中に消えているわけです。加治木の町の人たちの歴史だけ残って、田舎の方の歴史は全部消えている。文化は独立して行かなければならない。日置郡から鹿児島市に入って来ましたが、いずれはその歴史は消えてしまいます。

平田 明治の人たちが元気だったのは政府が積極的に地理や歴史をまとめて、みんなに配っていたことも見逃せない。



## 奄美と新聞

？ 大島の地名に「カネク」という地名があちこちにあるのですけど。

平田 砂浜のことを金久とか兼久と表記します。それは兎も角、琉球方言や奄美方言は難しい。地元の研究というのは3年や5年で理解出来るものではない。明治の頃、郷土史を書いた人たちは、その土地のことばで消えかかっていた伝承を書き残しています。伝承を蒐集するのは時間がかかったと思うのです。

上野 大島のよいところは地元新聞が2社あることです。だから文化レベルが高いのです。こちらは南日本新聞1社でしょう。本当は南さつま新聞とか北薩摩新聞なんなのがあってもよい。アメリカなんかでは町ごとに新聞がある。それが元々の原形で、全国紙というのはアメリカでもあるのだけど、ほとんど読まれない。南日本新聞の悪口をいうわけではないけど、あの形態が続く限り鹿児島文化はあまり伸びないと思うのです。小さな新聞が出来て来ると、地域の活性化に結び付いて地名が生きて来ると思います。

## 西南戦争の見直し

平田 鹿児島は大河ドラマ「篤姫」に触発されて、最近あちこちで10人・20人と連れだつて史蹟見学をやっています。

上野 鹿児島の人たちはすぐ忘れるのが好きだから。それよりも西南戦争を見つめるのが大切だと思う。

平田 西南戦争は鹿児島県民にとって大切な事件です。

上野 西南戦争だったらあちこちにいろいろなものがあるから、西南戦争関係をいろいろ発掘して行けば鹿児島県で歴史を調べながら食って行けると思います。

平田 今私は鹿児島城下士の懲役人のカードを作成していますが、共通事項が出て来ます。その人たちはほとんどが戊辰戦争に従軍している。帰って来て明治2年常備隊に入っている。常備隊ではそれまでの囃子(アツカイ)・与頭・横目という呼称でなく、小隊長・半隊長・分隊長という軍政下のリーダーになるのです。明治4年になるとそのメンバーが近衛の将校や下士官になります。近衛の大將は西郷隆盛。明治6年西郷さんが征韓論で下野すると、ごっそり同調して退職・帰郷します。

上野 西郷さんに従って辞めて帰って来ると、後釜を埋めたのが山口県の連中だった。

平田 その後私学校を作って結束し、明治10年西南戦争に突入します。

もう一つ大事なことは常備隊の連中が廃仏毀釈の担い手となって仏像をぶっ壊しているのです。戊辰戦争(倒幕)→廃仏毀釈→近衛兵→私学校→西南戦争のエネルギーは、全部つながっていることです。しかもこの連中が多いかということ、西田・武・荒田。甲突川の向う側の出身です。鹿児島城下士の中で最も下の階層です。その連中が西南戦争の中心になります。そのエネルギーは戦闘に負けながらも7ヶ月間粘ったことにつながります。

上野 『征西戦記』を読むと官軍は1日に30万発の弾薬を使っています。それに立ち向かった薩軍はすごい粘りだったのです。

平田 下級武士が中心になったのだけど、農民を取り込んでおらず(農民・町人は荷物運びの夫役)、フランス革命的なエネルギーにはなり得なかった。

上野 山県有朋は大久保利通・伊藤博文へ手紙を出し、鹿児島は農民まで敵だ、と見ています。みな西郷の味方だ、と。熊本を取り

返したからよいとしている向きもあるが、そんなものじゃない、と。

政府軍の方は鹿児島はみな西郷軍の支配下にあるとの意識が強かった。5月～6月の頃鹿児島に来た政府軍は鹿児島から一步も出なかった。5月末かな、囲まれると心理的に萎縮するので政府軍は張り切って攻めたら逆に西郷軍にやられてしまったことがあります。吉野の花倉で官軍が崖から追い落とされる戦

闘がありました。だから鹿児島の占領地から出ていません。周囲は西郷軍が支配していました。それが鹿児島奪回戦時の実態で、9月の城山籠城の時はそれが逆になるのです。

平田 懲役人筆記の分析で西南戦争の中核であった鹿児島城下士の動向が分析出来ることが判りました。今後は社会経済史的な面での分析が進み、西南戦争に対する見方が変わって来ると思います。

## 信仰地名メモ(2)

### 巖島神社(いつくしまじんじや)

#### (1) 県内での所在地

- |         |        |          |        |
|---------|--------|----------|--------|
| 1. 巖島神社 | 市来町大里  | 6. 巖島神社  | 笠利町手花部 |
| 2. 巖島神社 | 名瀬市小湊  | 7. 巖島神社  | 喜界町伊実久 |
| 3. 巖島神社 | 笠利町佐仁  | 8. 巖島神社  | 喜界町志戸桶 |
| 4. 巖島神社 | 笠利町須野  | 9. 巖島神社  | 瀬戸内町管鈍 |
| 5. 巖島神社 | 笠利町外金久 | 10. 巖島神社 | 龍郷町大勝  |
- 巖島(地名のみ) 吉田町東佐多浦

#### (2) 祭神からの考察

- 宗像3女神+大和の神々:北九州の航海神と大和の神の融合  
市杵島姫・田心姫・湍津姫 + 天照大神・国常立尊・素戔嗚尊
- 安芸国一之宮  
平清盛が安芸守となり崇敬。平家と結び付き航海神として崇拝さる。
- 鹿児島県本土では巖島神社・金比羅神社ともに少ない。(江戸時代の流入)  
住吉神社は考察済み(会報98号)。  
住吉神社=摂津国一之宮・長門国一之宮・筑前国一之宮  
朝鮮半島指向の勢力(大伴氏)と結び付く  
宗像3女神と住吉3神の全国分布は検討の要あり。
- 航海神としての八幡神・熊野神は南北朝時代以後  
倭寇との結び付き、唐人町の分布と比較が必要。

# 地名研究会報

第 105 号

平成 21 年 4 月 5 日

鹿児島地名研究会

- I. 第 105 回例会 平成 21 年 2 月 1 日 (日) 西郷南洲顕彰館研修室  
(出会者) 青柳俊二・石原孝典・今村誠一・入来院重朝・入来院貞子・上野堯史・  
仮屋園健彦・永坂芳彦・西 郁郎・橋口 健・浜田良知・肥後吉郎・  
久永耕三・肱岡修一郎・平田信芳・松元孝義・米原正晃 (計 17 名)

- II. 大日本地名辞書読会 P. 588~P. 589 薩摩国総論

[話題となった地名および事項] 伊佐郡の所属、日本地名ルーツ辞典、鹿児島島の由来  
薩摩の由来、薩摩郡の境域、桜島の由来、勝者の地名改変、  
列世群霊牌合塚(島津家歴代位牌埋納塚)、廃仏毀釈のエネルギー、  
西南戦争への視点、国権派(国権拡張論)

## 伊佐郡の境域

平田 伊佐郡は、最初は大隅国所属です。近世に入って島津氏の支配下に入った頃に、薩摩国所属になります。そのことをこの著者は知らずに、地理的に見て大口・菱刈は大隅国の範囲と見たのでしょう。菱刈郡は設置時から大隅国だったのです。現在、伊佐市になりましたが、その母胎であった菱刈郡は発生的に見ると大隅国です。中世の終り頃から薩摩国所属で取り扱われて来たのです。

## 日本地名ルーツ辞典

平田 B-4 のプリントで薩摩や鹿児島を解説したものを配りましたが、それは創拓社の『日本地名ルーツ辞典』鹿児島県の部分を拡大コピーしたものです。鹿児島県についてはすべて私が執筆しました。九州各県も一応目を通しました。執筆項目については項目ごとに執筆者名が掲載されています。説明よりも読んでもらった方が判り易いと考えてコピーして来ました。平成 4 年刊ですから 17 年前のものです。お持ちの方はおられますか。

入来院貞 持っていると思います。

## 鹿児島島の由来

平田 鹿児島島の語源については読んで貰えば判りますが、②と③の説が妥当だと思います。②鹿児島(鹿の子)説と③桜島の古名を鹿児島とする説です。県内に鹿児島神社と称するものが 3カ所にあります。鹿児島工業高校の裏にある宇治瀬神社(別名鹿児島神社)、垂水市の下宮神社(別名鹿児島神社)、隼人町にある鹿児島神宮です。これら三つの鹿児島神社を直線で結んだ三角形の中に、桜島がすっぽり入ります。したがって鹿児島神社というのは本来桜島(鹿児島)を御神体としたと判断出来ます。その点で桜島の古名は鹿児島だったと推論出来ます。私の説です。

それでは桜島の対岸に鹿児島という地名があるのは何故か。噴火によってこちらに逃げたことで鹿児島の地名がこちらに定着したと考えます。それを間接的に裏付けるのは鹿児島県の電話帳で「武(たけ)」という名字を探すと、桜島の武と鹿児島市の武町に多いのです。鹿児島市武町の人々は本来桜島の武から移って来たことを示します。「武」は

本来「嶽」を意味した呼び名だったと推定出来ます。

鹿兒とは何か。「麿」の文字が意味を持ちます。麿は「鹿の子」のことです。昔、鹿の子(鹿兒)が多くいたことで名付けられた地名と考えるのが命名の由来を考えるのに最も自然だと思います。

#### 薩摩の由来

平田 今日「薩摩」という地名の一覧を持って来ていませんが結構類例はあります。鹿兒島市田上に「薩摩迫」、串木野市金山峠の登る途中に「薩摩山」というバス停もあります。どんな所か。山裾の水が出る所で、農地としては広くない。そこで待っていると獣が水飲みに来るから、狩人がそれを狙って射た。「サツ」というのは狩りをするのに好都合な場所だったのです。

資料にサ・ツマ説とサツ・マ説の二通りがあげてあります。サ・ツマ説は刺身のツマ・着物のツマと同じで端の方の意味。サ・ツマは大和を中心に眺めた辺境の地を意識した呼び名になり、大いなる隅っこの意である大隅も同様な表現・蔑称と見てよい。上がると下がる、阿多と佐多、伊予国に英多(あがた)郷と賞多(さがた)郷があり、アとサは対照的に用いられています。アツマとサツマの対比も中央から見た蔑称と考えることが出来るが、全国的に見るとサツ・マ型地名が多く、サ・ツマ型地名はほとんどなく、この解釈は無理だと考えます。

万葉集に獵夫(さつお)獵人(さつびと)獵矢(さつや)などが詠まれており、サツは狩猟・獲物に関する言葉だと考えられます。マは野間・船間・母間など南九州に多い地域・範囲を示す地名語尾であり、サツマは獲物

が多く獲れる所の意味と考えられます。

薩摩迫・薩摩山などの地名が付いた所は、山間の狭い谷だったり湿田だったり、農耕生活を考えたら豊かな稔りを期待出来る場所ではありません。狩猟には都合のよい場所です。薩摩の文字・発音・抑揚などを考えるとサツ・マと考えた方がよいと思います。

#### 薩摩郡の境域

平田 薩摩隼人は主として近世の呼び名になります。古代薩摩郡の中心地はどこだったか。川内市の隈之城・宮崎一帯だったと考えます。薩摩郡は古代から現代まで続いた郡名です。和名抄は避石(ひられいし)・幡利・日置の3郷をあげています。薩摩郡3郷の境域は現在の市町村境域に当てはめて見ると、川内市の川内川左岸部分・樋脇町・入来院・串木野市北半(羽島・土川一帯)に該当すると推定されます。

突き止められているのは避石郷。中世文書に「ひられいし」という地名が出て来ます。平礼石寺跡近くに霧島遺跡が確認・調査され、いろいろな遺物が出土しています。霧島遺跡というのは、れいめい高校の敷地一帯で、その裏側にバイパスが通ることになり県教委が発掘調査に入って、薩摩郡衙跡だろうとの調査担当者の見解が発表されています。

避石郷は隈之城一帯で、他の2郷は入来・樋脇とどこになるのでしょうか。確実な考古資料が出て来るのを待たねばなりません。

上野 薩摩郡3郷の読み。避石(ひられいし)・日置(ひおき)、そして幡利はなんと読むのですか。

平田 幡利(はり)でしょうね。原:ハラはこちらではハル・ハリ・ハイ。例えば紫原

は「ムラサツパイ」というでしょう。

#### 桜島の由来

入来院貞 桜島の名はいつ頃付いたのですか?

平田 20代島津綱貴の命令で島ミカンを將軍綱吉に献上する時に付けられます。桜島は当時、向島(むこうじま)と呼ばれていました。鹿兒島から見ると、海の向こうに見えるからです。島ミカンは現在「桜島小ミカン」と呼ばれます。それを島津家から將軍家に献上するのは、向島ミカンと説明するのは、將軍家に手向かうようで不都合。何かよい名はないのかと聞かれ、昔から文人たちが和歌や詩を作るのに「桜島」という雅称を用いていたことが披露され、それがよかろうとなり元禄11年(1698)、今後は向島を桜島と称するようにとの命令が出るのです。それが正式に桜島と命名された年になります。

それ以前に文人たちが桜島と名付けて和歌や詩を作っていたのも事実です。平安時代に桜島忠信という人物が大隅守になって来ますが、桜島忠信の名を採って文人たちが16世紀頃から桜島と詠んでいたようです。一般の者が桜島と呼ぶのは元禄11年以後のことです。

桜島忠信には有名なエピソードがあります。大隅守に着任して郡司たちを集めたのです。すると白髪混じりの者がいたので、年令をとってまでも郡司の職についているのかと活を入れるために、出て来いと怒鳴りつけたのです。年寄りの郡司はおどおどしながらも歌を詠みます。

老いはてゝ雪の山をはいたゝけと、しもと見るにそ身はひえにける(拾遺和歌集)。宇治拾遺物語は「老いはてゝ」が「としをへて」になっています。

その歌に桜島忠信が感心して誉めたと云います。「しもと」は鞭(シモト)と霜との懸詞で、「頭は霜のように白くなっていますが国司の持っている鞭を見ると、身は冷えて縮みあがってしまいます」と。その歌に感心したとのエピソードがあり、文人たちが桜島の呼び名を付けたのです。

#### 勝者の地名変更

? 外国では勝者が征服地の地名などを変えることが多いのですが、日本ではそのような歴史は耳にしません。何故なのでしょう?

平田 日本の戦争では、どちらに付いた方が有利なのかの判断が働いて、降伏は日常的に見られて現象です。勝った場合でも負けた方の大将だけを処分し、下々の家来や庶民を処分することはなかったのです。地名まで変えるのは滅多にやりません。近世に入ると島津氏のように広い範囲を征服すると表現の仕方を変えたことはあります。しかし極端な変更はしません。その土地に根付いた人々を敵に回したら、結局は自分たちの支配基盤をひっくり返すことになり、反感を買うようなことをやらないのが日本の感覚ではないでしょうか。

例えば古代では最後まで抵抗した大隅隼人たちを畿内や関東の方に移したり、辺境地帯に移したことがありますが、地名はほとんど変えていません。

入来院貞 外国では敗者をみな殺しにしたりします。

平田 生かして残しておく、通り過ぎた後で、うしろからやられることがありますから徹底して殺します。日本人は思いやりがあるのです。古い地名はそのようにして残っ

ているのです。江戸時代、頻繁に大名の国替が行われますが、殿様と主だった少数の家来：上級武士が移動するだけで下級武士や庶民は住み慣れた土地から離れないのが普通でした。在地勢力が根強いから地名は容易に変わらないのです。

#### 島津氏歴代位牌埋納塚

平田 1月24日、上町の歴史と文化に<sup>学ぶ</sup>考会の野外巡見で福昌寺墓地に行き、六角柱の石碑に出会いました。その碑はまだ読んでいなかったのです。これは何ですかの質問に触発され、その場で苔を落とし文字が読めるように掃除をしたのです。石碑を調べる方法を実際にやって見せ、させたのです。その翌日、碑文を写しに行きました。大物でした。

肥後 何でしたか？

平田 廃仏毀釈の時に島津家歴代の位牌をあちこちから集めて埋めた塚です。鹿児島藩では廃仏毀釈は徹底して行われました。その中心になった島津の殿様やその一族の位牌を集めたという塚ですから、えらい大物です。今まで気付かれなかったことは不思議でもあり、驚きでもあります。

上町の歴史と文化に<sup>学ぶ</sup>考会の活動で見付けたものですから、その会にまず発表し（2月14日）、その後でこの会にもその資料を配付します。苔むして、ほとんど読めない状態でしたから、気付かれなかったのです。

肥後 苔に覆われて文字が見えなかっただけで、掃除をすると碑自体は傷んでおらず、はっきり見えました。明治2年の碑文です。

平田 鹿児島での廃仏毀釈の最終段階、明治2年暮の碑文です。すぐさま「忠義公史料第6巻」明治2年を調べましたが、そのような記事はありませんでした。

肥後 重豪の墓前の広場。

平田 重豪の墓域。そこに広場があったので建てたのです。あのような形のものに万霊供養塔があります。殿様たちが狩猟で鳥や獣を殺していますから、時々鳥獣の供養をしたのです。そのような供養塔で似たような形のものを見かけたことがあったので、それまで読んでいなかったのです。

肥後 八角の塔？

平田 六角柱です。どんなことが書いてあるかという、廃仏を行ったのは異端・邪宗を恐れたからだ、と。最も恐れたのはヨーロッパ人がもたらすキリシタンです。廃仏はそれに対抗する神道中心の本来の姿に帰ったのだと主張しています。

入来院貞 碑文を書いたのは誰ですか？

平田 今藤惟宏という人物。学頭助とありますから造士館副学長だったのでしょう。鹿児島市史第3巻に金石文史料があり、調べましたが載っていません。

肥後 幕末～明治初めに今藤宏という人物がいますが。

平田 どのようなつながりがあるのか判りません（編集時後記：「西南記伝」に今藤宏の初名とあった）

? それは頂けるのですか。

平田 句読点を付け、翻訳文も作ってあります。次の例会で配ります。

入来院貞 合瘞塚は何と読むのですか？

平田 「ゴウエイチョウ」。瘞（エイ）は埋めるという意味です。冢（チョウ）は塚と同じ意味です。

#### 廃仏毀釈のエネルギー

平田 今日読んだ箇所、鹿児島は徹底して寺や仏像を毀したとする一方で実際は本願

寺派がはびこっていたとも書いてあります。

このことについて中公新書に『西南戦争』を書いた慶応義塾大学助教授小川原正道氏は「浄土真宗の人々は官軍に味方した。廃仏毀釈を推進した神社側が勢力を伸ばしたと常識的には考えられるのだが、薩軍に味方したために神社側は振るわなかった。官軍に味方した浄土真宗が鹿児島では勢力を伸ばした」と気づき、さらに「浄土真宗は本願寺を通じて朝廷に献金したことも、勢力伸張につながった」と分析しています。

私は懲役人筆記にもとづいて個人カードを作成していますが、西南戦争の中核になったのは鹿児島城下士の中でも最下級の人々で、実戦部隊の指揮官として麓郷士をリードしたのです。そのような城下士で生き残った人々が国事犯として懲役を課せられたのです。鹿児島出身の国事犯が約1,500名、うち450名が鹿児島城下士です。その人たちの出身地を調べると、一番多いのが西田村です。その次は武村・高麗町、それから荒田村です。これらは皆、甲突川右岸の出身者になります。それが薩軍の中核になったことがはっきりして来ました。

その人たちの経歴を見ると、共通した点があります。まず戊辰戦争に出征して幕府を倒した実績がある。帰郷後、常備隊に所属。常備隊に入った連中が明治4年になると近衛士官・下士官となって上京し宮中を守ります。明治6年征韓論で西郷隆盛が下野すると、退職して帰郷します。その後釜に座ったのは、上野さんが調べた山口県の人々になります。明治7年に私学校を設置し、明治10年に西南戦争に突入します。ということは、戊辰戦争から西南戦争まで、鹿児島城下の最下級武士

たちがリードしていろいろな改革を推進したのです。戊辰戦争から西南戦争までのエネルギーは皆つながっていたのです。

もう一つ大事なことは、鹿児島では常備隊が廃仏毀釈の実行者だったということです。そのことは「始良町郷土誌」の天福寺の項に書いてあります。南新聞社O.B.の名越護氏が今後廃仏毀釈と取り組むとのことだったので常備隊が廃仏毀釈の実行者だったとの話をしたら、彼が調べ始めて「坊津郷土誌」にも書いてあるとの報告を受けました。各郷土誌で寺院を調べて行くと、他にもまだあるかも知れません。

廃仏毀釈をやれば仏罰が当たるのではと、皆怖れたわけですから戊辰戦争から帰郷した若いエネルギーが新しい時代への行動ということでそうさせたと考えられます。その意味で鹿児島県では西南戦争を調べるのが、一番大きなテーマだと思います。

入来院貞 若い人たちの権威にとらわれないエネルギーが時代を動かしたのですね。

#### 西南戦争への視点

平田 若者は古い権威にとらわれない面もありますが、限界もあります。西南戦争に負けた一番大きな理由は十石に満たない何俵・何人扶持という下級武士がリーダーになり、麓郷士を引っ張って行った組織・編成にあります。薩軍の編成は200人で1箇小隊ですが鹿児島城下士30名・麓郷士170名という編成だったのです。麓郷士も1郷がかたまらないように、どこは10名・どこからは15名というモザイクの編成をしたのです。その結果、城下士と麓郷士との感情的対立が起きます。城下士たちは何と云ったか。「田舎の衆はやっせん」というと、麓郷士は「おまんさゝ達が

やってみゃんせ」と反発します。その対立が敗因のひとつだろうと思います。

薩軍の中で最も活躍するのが、6番大隊と7番大隊。別府晋介が率いた加治木の大隊と国分およびその近辺で編成した大隊で、これは郷単位でまとまった小隊だったからです。他の所は皆ばらばらにされていたので、隊長が戦死したら、皆逃げ帰っているのです。そんなことを各郷土誌は隠しているのです。自分たちが参加したことを美化するために、西郷さんは偉いと持ち上げることに一生懸命なんです。

先程読んだ箇所にも、大潮平八郎とか生田万などが出て来ましたが、平田篤胤の影響が大きい存在です。生田万は平田篤胤の門下で塾頭をつとめた人物です。

入来院貞 陽明学の影響もあるのでは？

平田 陽明学の影響はあったでしょう。西郷隆盛も大久保利通も若い頃、陽明学の教えを受けています。

肥後 水戸学派の影響もあったでしょうね

平田 そうですね。

？ 西南之役の国事犯：懲役人が送られた監獄は？

平田 青森・秋田・宮城・福島・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・山梨・新潟・岡山・広島・熊本・宮崎など。

内山 青森・秋田・宮城など、東北地方に収監された人々が多い。

平田 宮城刑務所に収監されたメンバーは『隠れたる西南の役の記録』に大体リストアップされています。市ヶ谷に収監された人たちも『鹿児島県史料、西南戦争第2巻』に名簿が掲載されています。個人カードを作成すると、それでも漏れがあることに気がま

す。また『西南戦争第2巻』は各県監獄ごとに上申書が整理されています。昨年『西南戦争第4巻』が刊行され、市ヶ谷に収監された人々の上申書がまとめられました。

？ 県立図書館で利用出来るのは複写本ですか？

平田 原本でなく複写本です。

入来院貞 宮城刑務所で亡くなった人の墓はまとめています。

平田 南洲墓地にも岩村県令碑のうしろに宮城で亡くなった7名と宇都宮で亡くなった5名の名を刻んだ碑があります。南洲神社百年記念に出した『西南の役戦死者名簿』には監獄で死んだ人も入っています。

内山 戦死者・獄中死が区別されていません。

平田 監獄で亡くなった人は別にリストアップしなければいけない。懲役に行った人は全部で約2,700名。そのうち約1,500名が鹿児島県出身です。『西南戦争第2巻』に市ヶ谷の名簿があり、その中に○印が付いたものがあります。○印の意味は不明としてありますが、個人カード作成の過程で○印の人は監獄で病死したことが判って来ました。病死した人が多く、政府はあわてて刑期を短縮して特赦で釈放しているのです。それらの整理を130年間やっていなかったのです。

市町村郷土誌は刑務所に行った人々のことは記していますが、刑期100日などの人の名はあげていないものが多いようです。刑期1年以上は各郷土誌すべて記していますが、『鹿児島市史』だけは例外です。

西南戦争の中核になった鹿児島城下の整理は、戦死者・懲役人ともになされておらず、その記載が欠けています。西南戦争をまとめ

ようにも中心部分が脱落しているのです。

10年の刑を受けた人たちは大体4年ぐらいで出獄して来ます。出獄すると皆有能な人材ですから政府に取り立てられ、知事になった人、国会議員になった人が多いのです。鹿児島県では村長・町長・小学校長になった人が多く、俺達には理由があった：「われに義あり」の感覚になって来るのです。そうすると西郷さんは偉いということだけが云われるようになるのです。

不幸なことに官軍側に付いた人々の子孫は皆鹿児島に帰って来れないのです。そういう点が、鹿児島県の風土・精神構造にあるのです。西郷さんを偉いという人たちは、明治維新・近代化へ舵を切った人物との功績だけを大きくとらえるのです。その点は否定出来ません。

しかし西南戦争で失った人的損害・経済的損失はあまりにも大きいのです。戊辰戦争で鹿児島県が失った戦死者は約550人。これは藩別戦死者では最多と思います。薩摩が幕府打倒に大きな力を発揮した：多くの犠牲者を出したと誇れる数です。日清戦争の戦死者は約14,000人。これを47都道府県で割ると1県当たり約300人になります。日露戦争の戦死者は約84,000人、これを47で割ると1県平均約1,800人。西南戦争での鹿児島県の戦死者は個票を作っていますが、5,500人を超えます。鹿児島県1県だけで日清戦争・日露戦争の県あたり平均数よりも多い犠牲者を出しているのです。従来、このような視点が欠けていたのです。しかも有能な人材を死なせたのです。働き手を失ったのです。生き残った人たちもリーダー格は懲役を課せられ、経済的に困ったのです。

調所広郷が蓄えてくれた金があったから、篤姫も將軍御台所として嫁にやれたでしょうし、倒幕にも使えた。残っていた金を西南戦争で使い果たしたから鹿児島県は一遍に貧乏県になった。それ以来130年間、苦しんだのです。

上野 西南戦争での蒲生郷を調べた時に気付いたことですが、麓の気の利いた連中はさっさと離脱して官軍に降伏し、九州山地で薩軍と戦っているのです。山奥の狭い所で育った人たちは逃げ出せずに最後まで薩軍に付いて行ったのです。

平田 懲役人筆記を見ると、後から集められて阿久根とか甕島などから出兵した人々は最初の戦闘で負けると、皆逃げ帰ってます。その他にも逃げ帰った人たちは多いのですが逃げ帰ったことを郷土史は書けないのです。そのために実体がよく判りません。(編集時後記：逃げ帰る動機は西郷・桐野・篠原が官位を剥奪され朝敵とされたことで、だまされたとの思いから浮き足だった)。

上野 逃げ帰って安心しとつたら西郷さんたちが帰って来て、戸長(村長)を通じて召集がかかり、及び腰で出て行ったら、捕まって懲役に送られたのです。

平田 その人数は500人ぐらいです。帰順後再出兵の罪状で一律懲役2年。そのことは「敬天愛人」26号に出水郷・高城郷について書きました。戸長(村長)が西郷さんからの手紙が来た。帯刀の上、集合。巡查を捕えよとの命令が出るのです。負傷して帰郷して連中が云われた通りに出て行きます。巡查詰所に近づくと逃げ出したので、斬った者が一人いるのです。斬った者は懲役3年。各所に配置された者は、夜が明けると、済んだ戻って

よいとのことで帰宅。たった一晚戸長の命令で張り番をした者は、懲役2年。割の合わない懲役人が500人いるのです。そのような画一的な処分を指揮したのは大久保利通と見なされたのです。佐賀の乱で厳しい処分をしていますから。

入来院 西南戦争の原因は大久保と西郷の決裂がすべて。そこには秘密があった。それが解明されていない。これが解明されない限り、明治維新以後の歴史はまだ闇の中です。二人の対決の背景には外国の圧力があったと思うのです。

上野 二人の対立はそれ以後の日本の軍隊のあり方にも関わって来るのです。西郷が中央に残っておれば、その後の歴史は変わったと思います。

入来院 大久保の背後にはヨーロッパの謀略が働いていた。パークスやアーネスト＝サトウの動きに注目する必要がある。

上野 軍隊は弾薬・銃弾の製造はしますが相当な量を買っています。そうでないと追いつかなかった。

平田 勝ためには無理してでも購入したでしょうから。

上野 西郷さんは日向では細島からの便を利用して大阪から新聞を取り寄せて毎日読んでいたと云います。天下の情勢を相当把握していた筈です。

#### 国権派：国権拡張論

入来院 西郷さんは国権派だった。国権派がヨーロッパ勢力の力を借りた暴走だった面もある。国権派が考えた中心は江藤新平以来ずーっと国家です。国権論が生まれる背景はヨーロッパ勢力のアジア進出です。日本が脅威に感じているのは江戸時代以来のロシアの

南下です。またアジアの大国清がアヘン戦争で敗北し、イギリス・フランスの船が日本近海に姿を現していました。明治維新以来ヨーロッパの圧力は重くのしかかっていた。現在もそうです。

それに対抗する手段が国家権力の確立であり、その具体化が朝鮮・台湾・中国への進出・制覇だった。

平田 征韓論が起きた時、西郷さんが大久保の家を訪ねて腹を割った話をしてしています。大久保の方が征韓に熱心だったと言います。びっしょり雨に濡れながらも喜んで帰宅するなり、書生に酒を沸かせと言いつけ、大久保も征韓論だったと言ひ、上機嫌だったとの話があります。

入来院 実際は大久保の方が征韓論者だった。

平田 鹿児島の人たちは、西郷さんが出掛けて行ったら平和的に国交が開けたらと思うている。これは無理な話だと思います。当時の朝鮮は徹底した鎖国主義で、日本の開国を蔑視していました。

現実では西郷下野後に鹿児島の中が江華島事件を起こしています。井上良馨と伊東祐亨。二人の少佐が率いた軍艦が江華島と釜山に赴いて実際行動を起こしています。その背後にいたのが川村純義海軍大輔と寺島宗則外務卿。薩摩コンビの動きの中で江華島事件が起こり、黒田清隆が江華条約：日朝修好条規締結の全権使節となって赴きます。征韓論を実行したのは薩摩出身者です。

上野 台湾もそうです。

平田 西郷従道だね。大陸進出路線はその後ずーっと続きます。日清戦争・日露戦争・義和団事件・満州事変・日中戦争・太平洋戦争

争までエスカレートします。

上野 西南戦争で官軍側も優秀な人材を失った。生き残った少々レベルの落ちる官軍将校の子孫が世襲で軍人になっている。どの位階まで昇ったかをインターネットで調べることが出来るのです。日清・日露戦争の敗因まで一貫して連なっているのではないかと、思うのです。

平田 無茶な戦争の連続でした。

上野 情けないリーダーに引きずられた歴史です。

平田 それにしても世の中の若者は漫才や歌・踊りに熱中し過ぎている。一方、ロボコンや小型衛星の打ち上げに熱心な若者もいるけど、大半が浮かれています。

上野 太平洋戦争直前の頃：昭和10年代から不幸な歴史が続いている。

平田 1929年の世界大恐慌。それ以後、アメリカはニューディールを行なった。現在はそれ以上の不況で、オバマはグリーン＝ニューディールを唱えている。大恐慌・ニューディール・ソ連邦の五ヶ年計画、ファッショやナチスに向かったイタリアやドイツ。そう言った一連の近代史を学び直す必要があります。

入来院 オバマにファッショの片鱗があるとの論評もあります。今後、日本に対する圧力が強まるでしょう。

上野 保護貿易が強調されるでしょう。

入来院 アメリカに逆らえない面が、どうしても出て来る。しかし、20年経てば歴史は大きく変わりますよ。その時日本はどうなっているか。近代史をよく学ぶ必要があります。

平田 中国が最近おかしくなっている。

入来院 一つ間違えば韓国と同様の状態に

なります。中国は王朝交替の歴史を繰り返しています。古代と変わらないですよ。アメリカと中国はよく似てますよ。社会構造がね。

平田 ちょっと下火になりましたが、田母神論文なんてのがマスコミの話題となる世の中です。自衛隊員がどのように考えるのか。簡単にクーデターなんてのは起こらないでしょうが、今後彼が参議院議員に立候補するかも知れない。

入来院 クーデターでも起こしてもらいたいですね。

平田 彼が参議院議員に当選したら警戒しなければいけないだろうと思います。

上野 自衛隊がクーデターを起こしても、国民が付いて行くか。

入来院 一つの刺激ですよ。

上野 幹部が発言しても自衛隊員は動くのか。

入来院 日本人自体が世界の動きを理解していませんよ。麻生さんだってそうでしょう

平田 いろんな説が出てきたな。

入来院 日本はアメリカに支配されていますからね。

平田 戦後63年経っても日本にアメリカ軍の基地がありますからね。それに対する自覚は誰も口にしませんよ。

入来院 オバマは天才的キャラクターだけど、アメリカの奥の院が世界を支配してますからね。そのうち不都合なことがばれます。歴史の必然ですよ。

平田 違った視点の登場ですね。

入来院 日本人は世界中で最も優れた頭脳の国民です。日本はアメリカの軍隊を養っているのです。(以下5行、ロックフェラーの説明省略)

# 鹿児島地名研究会員名簿

平成21年4月5日現在

青柳 俊二	橋口 健
池田 純	
石原 孝典	浜田 良知
今村 誠一	繁昌 正幸
入来院重朝	肥後 吉郎
入来院貞子	久永 耕三
岩屋 幹夫	脇岡修一郎
上野 堯史	平田 信芳
内山 憲一	福元 忠良
川野 雄一	二見 剛史
仮屋園健彦	古市 吉男
霧島 一浩	本田 碩孝
久米 雅章	松田 誠
小原 親英	松元 孝義
築地 成郎	
寺田 守男	松浪 由安
永井 富夫	村山 謙一
永井 啓介	柳原 孝一
永坂 芳彦	山崎 盛隆
西 郁朗	山下 東洋
西田 春人	米原 正晃

## 物故会員

小川玄三郎・片岡八郎・上赤一豊・桐野利彦・木場武明・郡山政雄・永田典男・浜崎盛雄・  
原口虎雄・肥後芳尚・鉦之原矢七・本田親虎・山田慶晴

# 地名研究会報

第 106 号

平成21年6月7日

鹿児島地名研究会

I. 第106回例会 平成21年4月5日(日) 於西郷南洲顕彰館研修室

(出会者) 青柳俊二・内山憲一・川野雄一・永井富夫・浜田良知・

平田信芳・松浪由安・米原正晃 (計 8名)

II. 大日本地名辞書読会 P.590~P.591 薩摩國十三郡

[話題となった地名および事項] 泗川の戦・薩摩潟・古代隼人の畿内移住・

古代語が多い鹿児島方言・列世群霊旧牌合寮家・裏尺矩形と黄金矩形

## 泗川の戦

平田 島津勢が泗川の戦で3万8千人ほど斬ったことは事実です。韓国では泗川の戦とは云いません。晋州の戦と云います。州都の晋州一帯での戦鬪と捉えています。その一帯で朝鮮の兵が7万人やられたとしています。島津側の3万8千よりも多い数を記録しています。明史には8万人の損失数をあげていますから間違いのない数でしょう。

現在、泗川は現在国際空港を建設中ですので、日本側の表現に引きずられて印象を悪くはしたくないでしょうから、泗川の戦という説明はしません。バスガイドは晋州の戦と説明します。

## 薩摩潟

平田 「薩南の海洋をばかくよべり、殊に鹿児島湾を指し薩摩潟とおもへるもあり」とあります。七高の寮歌は相当数あったのですが、鹿児島湾(錦江湾)のことを大抵薩摩潟と呼んで歌っていたようです。

## 古代隼人の畿内移住

平田 大和(奈良県)に阿田<sup>あだ</sup>という地名があり、阿多隼人が移っていることが考えられます。奈良県桜井市あたりになります。「桜井市郷土誌」に方言をまとめた章があり、

その方言を見ると鹿児島語そっくりです。宇治や田辺にも隼人が移住しており、その方言にも鹿児島弁が沢山残っています。

浜田 隼人研究会でもそんな話を聞いた事があります。奈良県で鹿児島弁と同じ表現が多いのに気付いた、と。

平田 中村さんの話?

浜田 いや、違う。

平田 永山さん?

浜田 あゝ、そうです。

平田 隼人が移住して行ったことは歴史的事実と考えられます。方言から推して行けば神武東征説もあながち否定出来ないと思うのです。話は飛躍しますが、関東:神奈川県に平塚市があります。昔は大住郡と呼ばれていました。平塚市の前身:大住郡大野町の郷土誌「大野誌」の方言の章を見ると、めめず:みみず、使い:つけ、長い:なげ、遠い:とえ、広い:ひれ、あんばい:あんべ、良い気味:いいきび、いじるな:いじんな、などいくらかでも拾うことができます。(具体例は編集時に補足した)。

関東までどうして大隅隼人が移って行ったのか。隼人は大和朝廷が関東を征服する時に兵士として連れて行かれたと思うのです。



そこに住み着いてしまって、大住郡が出来、隼人の連中がしゃべっていた鹿児島弁が方言として残ったと考えるのです。

#### 古代語が多い鹿児島方言

平田 鹿児島語では、け忘れた、引き破れた(ひっきゃぶれた)、打ち置け(うちよけ)など、接頭語が付くものが多いのです。ところが、それらの接頭語は万葉集を見ると頻りに用いられています。古代隼人が征服されてから覚え込まされた大和の言葉：その表現が今まで鹿児島に残っているとは考えられない。こちらの言葉でしゃべっていた連中が大和に行って支配者となり、その言葉が奈良地方に広がり万葉集に記録されたと考える方が解釈としては素直である。その言葉を近畿地方の人々の大半は忘れてしまい、隼人が移住した地域に方言として残った。本源地の鹿児島では脈々と古代語が化石語でなく生きた方言として残ったと考える方が自然の解釈。カタヘラ(片側)、トツパナ(突端)、マクレミツ(まくれて来る洪水)など鹿児島方言と同じものが、古代隼人移住地に残っていることを見直すべきだと思います。

浜田 鹿大の女の先生。

平田 法文学部長の木部先生でしょう。

浜田 あの方は鹿児島弁には古代語が多く残っていると考えておられる。

平田 そこらあたりのことについて日本の古代学者が証拠を見付けて行くべきだと思います。

浜田 そういう研究は相当進んでいるのではないかな。

平田 案外進んでいないのでは。

浜田 私は十年ぐらい前に聞いた。

平田 私はもっと早くからそれを云って

いるのだけど。

浜田 先生がそれを公言されないと。こういう所で云っても。

平田 本には書いてあるのですがね。

浜田 発音とか文法的な問題とかいろいろ整理されています。

平田 そういう面で鹿児島の歴史は見直されていいと思います。

浜田 あの先生は類娃語の研究で、それに気付いたということですか。

平田 ちょっと休みましょう。

(後半部分は録音失敗。そのために会報の内容を膨らます必要から当日話していない具体例を付け加えた)。

#### 島津家歴代藩主の名前

内山 島津家久は徳川家康の「家」を貰って名付けた名。島津斉興や斉彬は將軍家斉の名を拝領したと云われますが。

平田 歴代藩主はほとんど將軍の名を貰っています。薩摩は幕府の力など恐れなかったというのは強がりの話に過ぎません。(当日説明しなかった分も含めて列挙する)。

足利義輝 → 島津義久

足利義昭 → 島津義珍 → 義弘

徳川家康 → 島津家久

徳川家光 → 島津光久

徳川家綱 → 島津綱貴

徳川綱吉 → 島津吉貴

徳川家継 → 島津継豊

徳川吉宗 → 島津宗信

徳川家重 → 島津重年・島津重豪

徳川家斉 → 島津斉宣・島津斉興・

島津斉彬

徳川家茂 → 島津茂久

近衛忠熙 → 島津忠義

#### わけー・わがえ・わがやど

川野 自分の家のことを鹿児島では「わがえ」とか「わがやど」と云いますが、それらは万葉集でもよく出て来ると読むことができます。

平田 鹿児島方言に多い、け・引き・打ちなどの接頭語の他に、万葉集に多く見られる表現に今話に出たわけー・わがえ・わがやどなどの表現があります。わぎへ(わけー)・わがへ(わがえ)・わがやどは万葉集でも多く見られる表現であり、木村徳国『古代建築のイメージ』NHKブックスは、わがやどは奈良時代に出来た言葉、わがへ(わがえ)・わぎへ(わけー)はそれよりもはるかに古い時代に用いられた言葉だと分析しています。これらが他の地域では死語となっているのに鹿児島県にはそれらが脈々と方言として生き残っています。このことについては『国分物語』国分高校七十周年記念誌所収や『地名が語る鹿児島の歴史』かごしま文庫でも書きました。

わぎへ→わがえ→わがや→わがやど  
(飛鳥・白鳳) (奈良)

#### 列世群靈旧牌合瘞冢

平田 これは会報105号でも概略触れた廃仏毀釈の時に島津家歴代の位牌を埋納した塚のことです。句読点を付けた漢文と訳文の二通りを資料として配付してありますのでそれを読んで下さい。

どこにあるかというのと、福昌寺墓地の島津重豪墓所。両側に多くの墓前灯籠が並んでいますが、向かって右側の手前の方に六角形の尖塔があります。すぐ目につきます。

碑文を書いた今藤宏は私学校で教えただけでなく私塾も開いていました。その私塾に

肥後国の池辺吉十郎が学びに来ています。その関係で西南戦争に際し、池辺吉十郎が熊本隊を組織して薩軍に参加します。

#### 裏尺矩形と黄金矩形

平田 訳文(島津家歴代位牌埋納塚)の後の方に地下埋納施設10尺×7尺・深さ不詳とある部分については補足・訂正します。

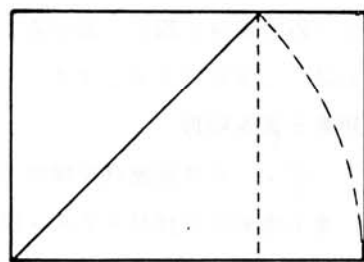
318cmを10尺、217cmを7尺とみましたが、古代以来の技法を考えると $7\sqrt{2}$ 尺×7尺の矩形を考えた方が合理的だと思います。昔、大工や石工が用いた鋼鉄製の番匠曲尺(ばんじょうがね)と呼ばれた直角に曲がったものさしがあります。几帳面な堅物を番匠金のような男と云いますが、番匠が用いる曲尺(かねじゃく)に由来する表現です。

表面は曲尺の目盛ですが、裏返すと $\sqrt{2}$ 倍の裏尺の目盛になっており、表・裏を使い分けると容易に裏尺比の裏尺矩形を描くことが出来ます。平安時代の建物には裏尺比・裏尺矩形を用いたものが多いのです。合瘞冢の埋納施設はその技法を受け継いだと考えます。

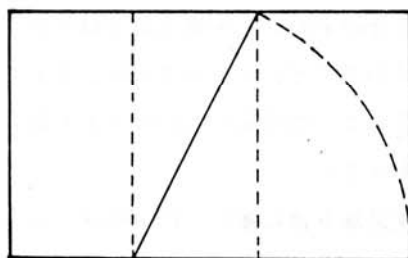
奈良時代には裏尺比よりも黄金比(黄金截・黄金分割)を用いる技法が流行します。そのことは東大寺の建物の記録から計算して容易に割り出せます。黄金比を用いた矩形を黄金矩形と云います。

黄金比とは  $a : b = b : a + b \approx 0.618 : 1 \approx 1 : 1.618$  になります。国際的には黄金截(おうごんせつ) Golden section として知られています。

裏尺矩形と黄金矩形の作図法を図示しておきます。



裏尺矩形 (1:√2)



黄金矩形 (1:1.618)

《地名学ノート、2》

吉 田

(1) 吉田

1. 美称、好字として使用。 吉・芳・良・好・善・賀・佳・嘉・慶・美・淑・喜etc.
2. 葦が生えている所。葦は「悪し」に通じるとして忌み、ヨシに呼び変えられた。
3. 吉田神社による伝播地名もあるか。 『地名用語語源辞典』

(2) 角川日本地名大辞典に見える「吉田」「吉岡」「吉野」など。

1. 福井県吉田：吉田<芦田
2. 愛知県吉良町吉田：芦田>吉田。好字にした説が妥当。 吉良<雲母(きらら)
3. 広島県吉田町：出雲・石見路の宿駅。毛利元就は吉田城を拠点として成長した。
4. 愛媛県北宇和郡吉田町：葦田>吉田(佳名に改名)。
5. 鳥取県吉岡温泉：葦が多く生えていた葦岡→吉岡に変化。
6. 佐賀県吉野ヶ里：「良野」に通じる佳字地名。
7. 四国の吉野川：ヨシ(葦の別称)が一面に生育していた→吉野川
8. 東京(江戸)の吉原<葦原

(3) 『日本地名索引』アブック社

1. 吉田 142例 芦田 5例(千葉・長野・兵庫3)
2. 吉野 52例 吉野〇(山・川・沢) 36例

(4) 万葉集に見える葦 葦原・芦屋・葦火・葦垣etc.

葦垣の隈処に立ちて吾妹子が袖もしほほに泣きしぞ思ほゆ(万、4357)  
 足柄の箱根の山に粟蒔きて実とはなれるを逢はなくもあやし(万、3364)  
 足柄の安伎奈の山の引こ船の後引かしもよこば来がたに(万、3431)  
 あしひきの山鳥の尾の一峯越え一目見し児に恋ふべきものか(万、2694)

(5) 神勅

豊葦原の千五百秋の瑞穂国は、是れ吾が子孫の王たるべき地なり、  
 汝皇孫、往きて治せ、さきくませ、天津日継の栄えまさんこと  
 天壤とともに窮まり無かるべし。